

軽井沢

風のコンチェルト

風のコンチェルト



町制施行95周年記念誌
軽井沢町勢要覧2018
発行 軽井沢町
初版 2018年7月発行
第2版 2019年8月発行
第3版 2021年8月発行
制作 凸版印刷株式会社

2018

町制施行95周年記念誌
軽井沢町勢要覧

第3版

軽井沢町勢要覧2018



ようこそ!高原保養都市

Welcome to Karuizawa

“軽井沢”へ

軽井沢町は、日本を代表する火山・浅間山の麓に広がる高原の町です。東京から100km圏内、北陸新幹線で約1時間という近さにありながら、冷涼な高原の気候と森に包まれた風土が世界の多くの人々に愛され、130年余にわたり国際的な保健休養地として発展してきました。軽井沢町が誇る美しい景観は、自然からの贈り物であると同時に、町民が大切に守り慈しんできたものです。未来に向かって、私たちはその価値をさらに高め、「自然と文化が奏でる軽井沢」をつくろうと力を合わせています。この町に暮らす人々にとって、また安らぎを求めてこの町を訪れる人々にとって、より魅力ある町にしたい。そのために新しい文化を創造しようとする町の姿をご覧ください。

軽井沢町民憲章

(町制施行50周年を記念し、昭和48年8月1日制定)

わたくしたちは、雄大な浅間山に抱かれた高原の町軽井沢の町民です。
わたくしたちは国際親善文化観光都市の住民にふさわしい世界的視野と未来への展望に立って、ここに町民憲章を制定します。

- 一、世界に誇る清らかな環境と風俗を守りつづけましょう
- 一、すべての来訪者に心あたたく接しましょう
- 一、かおり高い伝統と文化を育てあげましょう
- 一、緑ゆたかな高原の自然を愛しまりましょう
- 一、明るい家庭と伸びゆく町を築きあげましょう

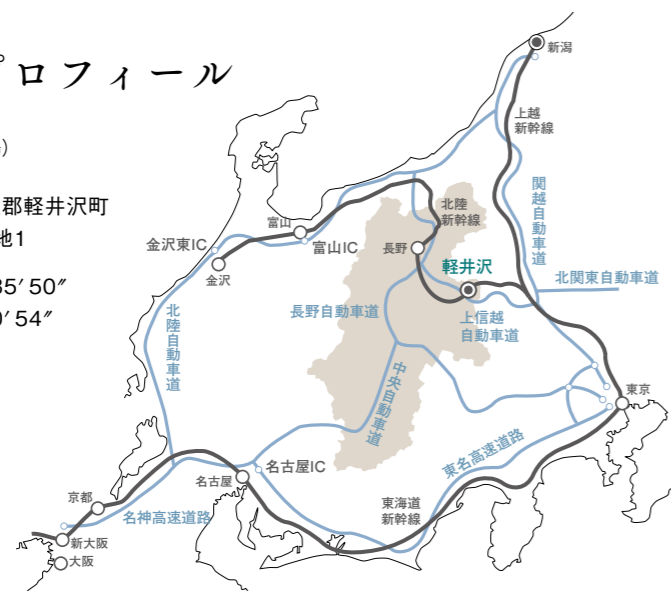
四季の彩りは 自然からの贈り物



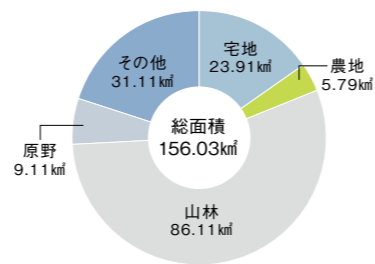
軽井沢町プロフィール

▶ 位置(役場)

長野県北佐久郡軽井沢町
長倉2381番地1
東経 138° 35' 50"
北緯 36° 20' 54"
海拔 938m

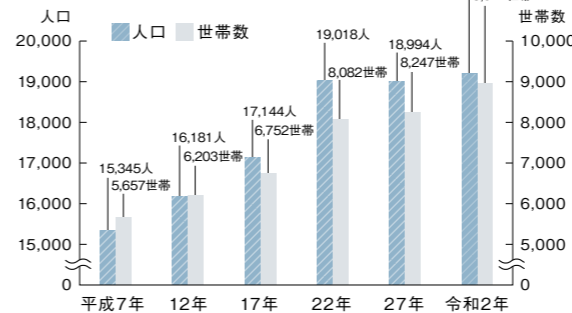


▶ 土地の面積



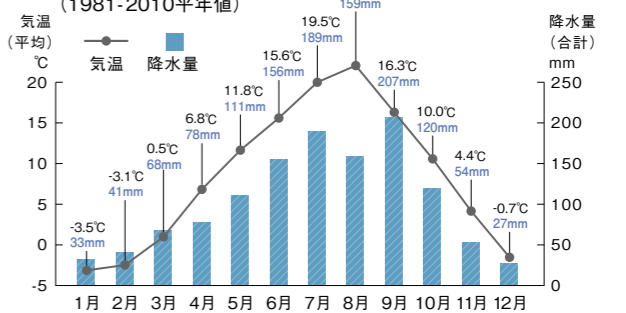
東西 12.5km 南北 14.0km
周囲 58.7km

▶ 人口と世帯数



資料:国勢調査・令和2年は長野県毎月人口異動調査結果による

▶ 気象データ



資料:長野地方気象台

森をうるおして流れ下る豊かな水、 人の暮らしと自然が調和して 癒しの空間が広がる

この自然こそ保健休養地としての魅力

浅間山の南山麓に広がる標高約900メートルの高原が軽井沢。随所にある湧水から裾野を流れ下る豊かな水脈は、思わず息をのむほど美しい滝や溪流の景観を生み出し、木々を育て、森の中に多様な自然を育ててきました。国設の「軽井沢野鳥の森」をはじめ、野鳥の生息地としては国内屈指。森の中にはリスなどの小動物もたくさん生息しています。

軽井沢町の魅力は、この魅力的な自然が人々の暮らす地域と重なりあい、身近に存在していること。気軽に遊歩道を歩くだけで溪流や滝の景観を楽しみ、小鳥や小動物に出会うことができます。美しい自然の造形とそこに生きる動物たち——この自然が保健休養地としての魅力を形成し、癒しを求める人々をひきつけています。



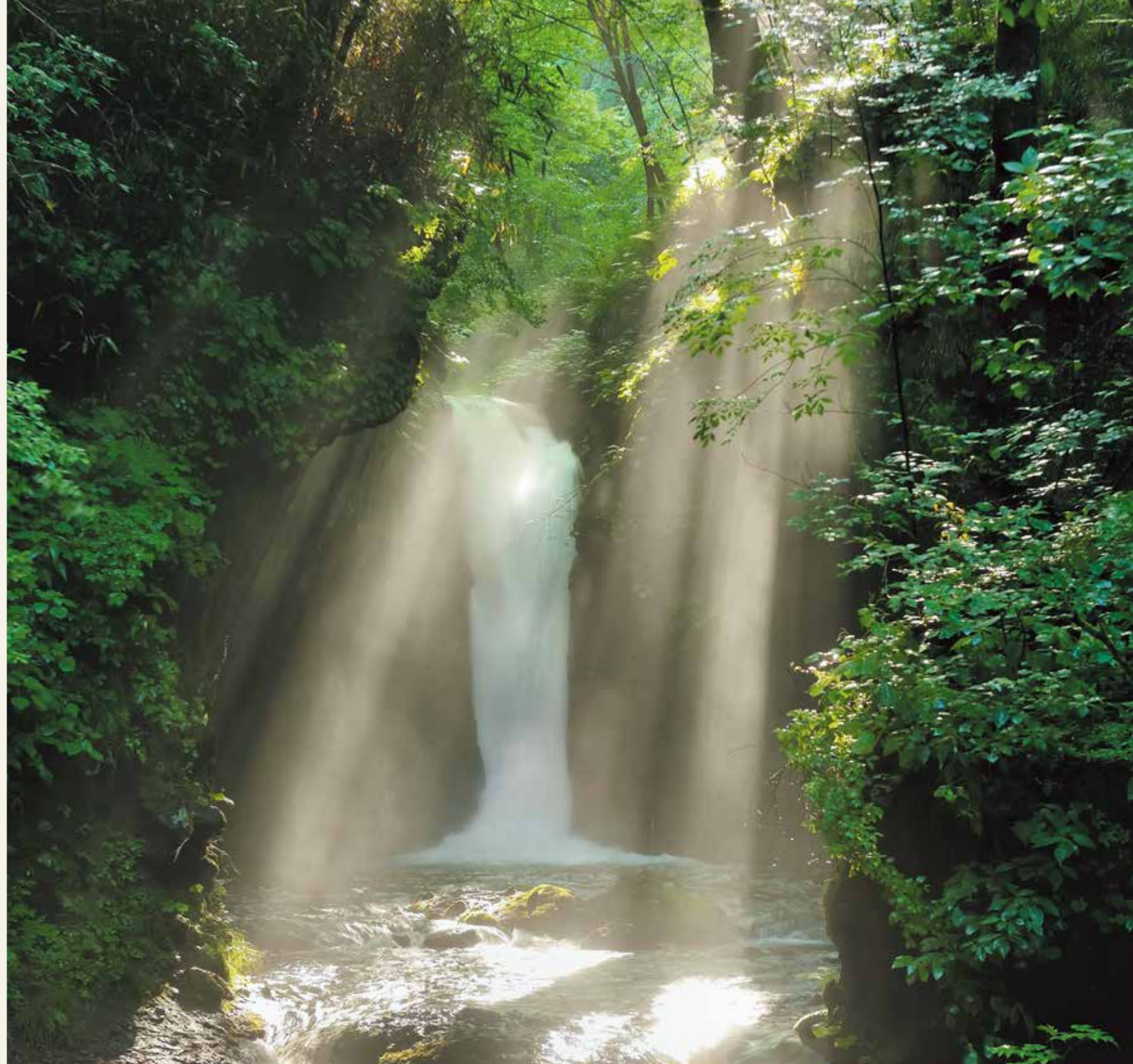
朝霧に覆われる池



千ヶ滝



信濃路自然遊歩道



竜返しの滝



コケが美しい室生犀星記念館の庭



オオルリ(軽井沢野鳥の森)



せせらぎの道

近世・宿場町の顔

江戸へ、京へ—— 行き交う人々で 浅間根腰の三宿はにぎわった



峠のまちに育ったおもてなしの心

江戸時代、軽井沢は江戸と京を結ぶ中山道(木曾街道)沿いに三つの宿場町がありました。中山道の難所、碓氷峠を越えて信濃国(長野県)の玄関口に位置した、軽井沢宿・沓掛宿・追分宿の三宿は、浅間山の南麓、高冷地に位置したため「浅間根腰の三宿」と呼ばれました。追分宿西側にある「分かれ」は、中山道と日本海側へ向かう北国街道の分岐点で、今も江戸時代の道標など、石造物が残されています。峠の麓に位置し、交通の要衝として三宿は多くの旅人でにぎわいました。



軽井沢は江戸時代から多くの旅人を受け入れてきたまちです。そこで育まれた「おもてなしの心」が、近代を迎えてからも、まちを訪れた外国人を快く受け入れ、今日の発展の礎となっています。



浮世絵「木曾街道六十九次」に描かれた浅間根腰の三宿。上から沓掛宿(英泉)、追分宿(英泉)、右ページ上は軽井沢宿(広重)



中山道と北国街道の分岐点「分かれ」



しなの追分馬子唄道中



旧銀座にも宿場の面影が残る



旧碓氷峠頂上の熊野皇大神社

近代・避暑地としての歩み

1886年、A・C・ショー師に見出されて、 国際的な保健休養地へ

「屋根のない病院」
——美しい村に魅せられて

明治17年、碓氷新道(旧国道18号)が開通して軽井沢は宿場町として使命を終えますが、新しい道はカナダ生まれの英国聖公会の宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーをこの地に導きます。明治19年(1886)夏、軽井沢を訪れたA・C・ショー師は、美しく清澄な自然と冷涼な気候を「屋根のない病院」とたたえ、家族や友人にそのすばらしさを伝えます。そして明治21年には旧軽井沢に簡素な別荘を建てました。ここから軽井沢は保養

地としての新たな歩みを始めます。

最初は外国人宣教師やその家族の別荘が建ち、やがて作家や文化人、政治家、財界人の別荘が建つようになり、保養客を受け入れる近代的なホテルも建設されました。戦前・戦後と大規模な開発が行われ、ゴルフ、テニス、スケートなどのスポーツも楽しめる保養地として発展しました。宣教師たちがこの地に求めた「善良な風俗と清潔な環境」を今も守り続け、今日に至っています。



明治30年(1897)、芭蕉句碑の前で



大正2年(1913)の旧軽銀座通り



昭和46年(1971)の旧軽銀座通り



ショー記念礼拝堂とA・C・ショー師胸像



A・C・ショー師の最初の別荘(移築・復元)
ショーハウス記念館



国指定重要文化財の旧三笠ホテル

作家たちが集う

高原を吹きわたる風が感性を刺激して 創造の舞台、アート空間をつくる

軽井沢を愛した作家・詩人たち

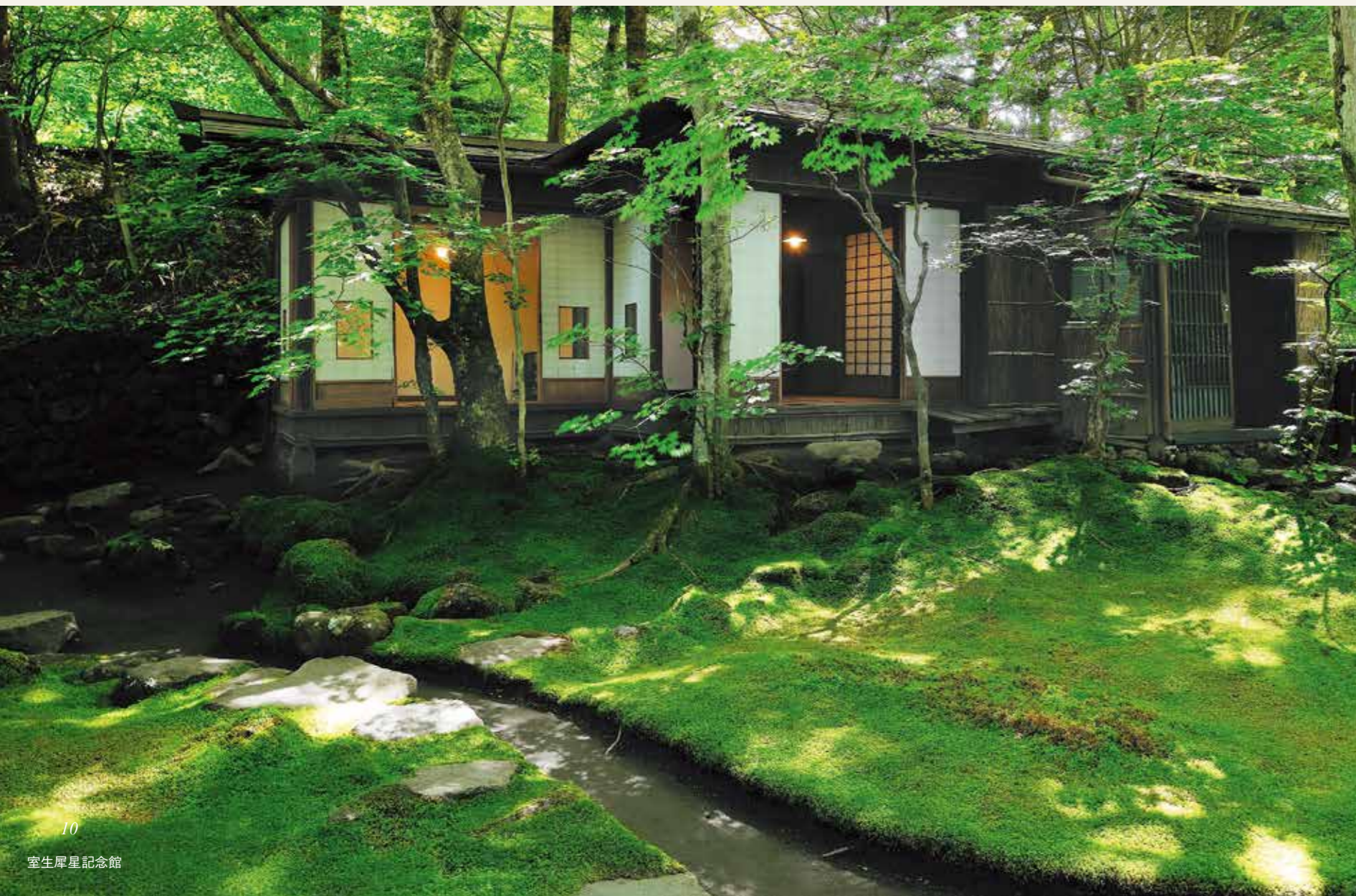
大正時代から昭和初期、そして戦後と、多くの作家や詩人が軽井沢を訪れるようになりました。与謝野寛・晶子夫妻、北原白秋、室生犀星、芥川龍之介、川端康成、堀辰雄、立原道造、中村真一郎……日本の近代文学を代表する名前が並びます。ホテルや旅館に宿泊していた作家たちは、自然や風土に魅せられてやがて山荘を建て、毎年のように軽井沢を訪れて、この地を舞台とした作品もた

くさん生まれました。町内にはいたるところに文学碑が残され、記念館として開放されている室生犀星の旧居、堀辰雄の旧宅など作家たちの足跡を求めて多くの愛好家が訪れています。

また、芸術を愛する人々が集うようになった軽井沢には、驚くほど多くの美術館や博物館が集まり、いつ訪れても常設展やユニークな企画展が楽しめます。自然とアート、暮らしが調和する風土は、文学・アート作品の創作の場にもなっています。



堀辰雄文学記念館



軽井沢高原文庫

北原白秋詩碑



軽井沢千住博美術館 撮影：阿野太一 © 軽井沢千住博美術館

セゾン現代美術館



川端康成の別荘があった幸福の谷

国際保健休養地

二度のオリンピック、G7・G20 世界の人々をもてなすまちに

昭和11年(1936)、
多くの外国人が参加した
軽井沢開発50年記念パレード



世界の人々が集う リゾート会議都市として

保健休養地としての魅力を外国人によって見出された軽井沢は、明治時代から地方では珍しい国際親善都市でした。戦後の昭和26年(1951)には、軽井沢町だけを対象とする「軽井沢国際親善文化観光都市建設法」が公布され、昭和39年(1964)の東京オリンピックでは総合馬術競技会場、平成10年(1998)の長野冬季オリンピックではカーリング競技会場として世界の人々がこの地に集いました。

そして、平成28年(2016)9月には、日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカとEUの担当大臣等が一堂に会したG7交通大臣会合が開催され、「G7長野県・軽井沢交通大臣会合宣言」が世界に向けて発信されました。令和元年(2019)6月15日・16日には、日本で初めてのG20サミットのうち、「持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が開催され、海洋プラスチックごみ対策や、エネルギー・気候変動分野に関する共同声明が採択されました。世界の環境問題がテーマの国際会議が、自然豊かな軽井沢町で開催されたことは大変意義のあることです。

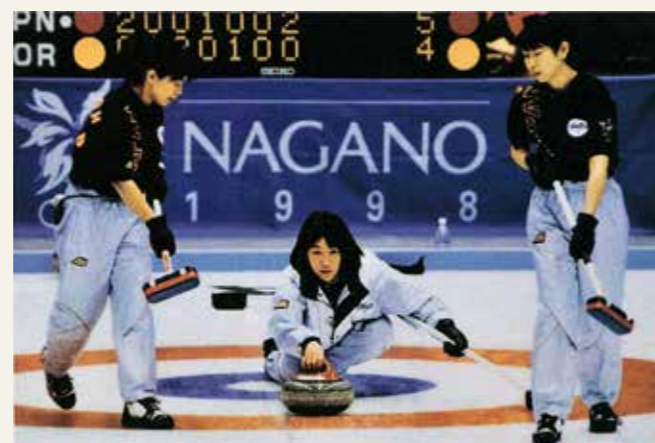
このG20軽井沢会合は、大臣らの数が40人以上、会議全体の参加者が約1000人と、平成28年(2016)のG7交通大臣会合をはるかに超える町の歴史上最大規模の国際会議です。令和2年(2020)6月には「国際小児脳腫瘍シンポジウム」も予定されるなど、日本有数のリゾート会議都市として、さらなる進化が期待されています。



令和元年(2019)、G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合



昭和39年(1964)、東京オリンピック総合馬術競技



平成10年(1998)、長野冬季オリンピックカーリング競技

平成28年(2016)、G7長野県・軽井沢交通大臣会合



姉妹都市交流

Canada / Brazil



カナダ

Whistler

ウィスラー

平成11年(1999)、カナダ西部のウィスラー市と姉妹都市提携を結びました。ウィスラー市は人口約9800人の自然豊かなまちで、年間250万人が訪れる世界的なリゾート都市です。毎年、学生たちが相互にホームステイするなど交流が続いています。



ブラジル

Campos do Jordão

カンポス・ド・ジョルドン

昭和43年(1968)に、ブラジルの高原地帯にあるカンポス・ド・ジョルドン市と姉妹都市提携を結びました。標高1600mの高地に位置し、暑いイメージのブラジルにあって、過ごしやすい気候の国際的な避暑地です。



種まきインタビュー

100年後の町に、豊かな果実を!

明治21年(1888)、A・C・ショー師がこの地に建てた小さな別荘は、国際的な保健休養地として、現在の軽井沢町を生み出す萌芽となりました。政財界の要人を迎えた旧三笠ホテル、近代文学界にその名が輝く作家たち、夏と冬2回の競技会場となったオリンピックも、現在の軽井沢町につながり、私たちは豊かに実ったその果実を享受しています。

50年後、100年後の軽井沢町民に、私たちは何を残すことができるでしょうか。将来豊かな果実をもたらす木々の種まき。今、どんな種がまけるのか、各界で活躍される方々と藤巻進町長にお話をうかがいました。





ストラディバリウス
「デュランティ」

種まきインタビュー①音楽の可能性

バイオリニスト 千住 真理子さん

どんな繊細な音も届けてくれる 軽井沢大賀ホール、 ここでしかできない音楽がある

※インタビューの内容・プロフィール等は取材当時のものです。

——軽井沢との縁、思い出や印象に残っていることを教えてください。

最初の思い出は私が中学2年、13歳だったでしょうか。野外ステージで行った夏の音楽祭で、山本直純さんが指揮する新日フィル*と共演したときです。直純さんの雰囲気もあって、とても楽しい印象が残りました。軽井沢は音楽がそこかしこにあり、あちらこちらでクラシック音楽が鳴っているまち。中学生の私には、そんなイメージに感じられました。

*新日本フィルハーモニー交響楽団

——演奏家にとって、大賀ホールはどんな場所でしょうか。

まずホール内の雰囲気が斬新でした。ステージを客席が丸く囲み、程よい客席数。音響もすばらしいし、さすが大賀さんだなという印象です。

とくに、自分の音が良く聞こえる。これは演奏家にとって最も大切です。ホールによっては、音が散ったり吸収されたりして、自分の音が聞こえにくいことがあります。主眼は客席に置かれますから、ステージの上でどう聞こえるかは設計上二の次で、良いと言われるホールでも



ステージでは苦労する。そういう意味で大賀ホールは、演奏家にとって非常に良いホールです。だからお客さまにより良い演奏を届けられる。私は過去にレコーディングも行っています。

私が大賀ホールをレコーディング場所を選んだのは、単にホールの音響の良さだけではなく、立地の面もとても大きかったです。自然の息吹に触れたい、自然の力を感性に取り入れたいと思いますし、意識しなくても、気持ちが演奏へ向かう空気がある。そういう意味でもとても良い場所です。

——大賀ホールとストラディバリウスとの相性はどうですか。

ストラディバリウスは、演奏家にとって非常に難しい楽器です。言い方を変えると、仲良くなれたときには、自分がイメージしたことをどこまでも忠実に表現できる——それがストラディバリウスです。

大賀ホールとの相性は非常に良いです。私が懸命に表現した微妙な音の移り変わり、繊細なニュアンスを、そのまま聴衆に伝えることができます。

——軽井沢の雰囲気は、芸術など創作活動にどんな影響があるでしょう。

中学時代に初めて軽井沢で演奏したとき、皆さんが屋外でリラックスして楽しそうに聞いてくださった、その雰囲気が強烈に印象に残っています。豊かな自然のぬくもりというのでしょうか。あのとき、自然と音楽のつながりが私の思考回路に組み込まれた感じがある。自然は多くの芸術を生み出していますから。

軽井沢は自然だけではなく、人も住みやすく、アートがあり、バランスのとれたまちであり、程よい規模でまわっている。軽井沢に住んでアーティスト活動を続けたい



千住真理子(せんじゆ・まりこ)

1962年生まれ、東京都出身。2歳からバイオリンを始め、12歳でプロデビュー。1977年、日本音楽コンクールで最年少優勝、79年バガニー国際コンクールに最年少入賞など目覚ましく活躍する。2002年、ストラディバリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たす。バイオリニストとして国内外で多彩な演奏活動を行い、社会活動にも積極的に参加している。長兄は日本画家の千住博氏、次兄は作曲家の千住明氏。

という気持ちになるのも当然だと思います。

——軽井沢に音楽文化を根づかせていくうえで、提言はありますか。

大賀ホールがあるので、音楽は根づいていくと思います。大賀ホールは演奏家の間で非常に人気がありますし、質の良いコンサートも開催されています。都心のホールと違うのは軽井沢ならではの楽しみ方があるということ。美術館などもたくさんあるので、演奏を聞いた後そういった場所に寄って帰るという方もいて、芸術を楽しむすてきな環境が整っていると思います。

——大賀ホールにはどんな活用を期待されますか。

大賀ホールは音響がすばらしく、とくに弦楽器の鳴りを上手に聴衆に届けますから、弦楽器の演奏会を多く開いてほしいです。私自身は、チェンバロとの演奏を実現したいですね。チェンバロの繊細な響きは、大賀ホールのような、どんなにデリケートに弾いてもすべて拾って聴衆に届けてくれる音響があれば生きてきます。

大賀ホールでしかできないことはたくさんあるはず。それを一つずつやっていけば、もっともっと音楽ファンが増えていくと思います。



大賀典雄(おおが・のりお)氏
ソニー(株)社長、東京フィルハーモニー交響楽団会長などを歴任。軽井沢町名誉町民。2011年逝去

軽井沢大賀ホール
軽井沢の音楽文化振興のため大賀氏が私財を投じて建設、平成16年、町に寄贈





種まきインタビュー② スポーツ文化

SC軽井沢クラブ もろずみ ゆうすけ 両角 友佑さん

カーリング文化を軽井沢から日本全国に 選手の育成・強化につなげていきたい

※インタビューの内容・プロフィール等は取材当時のものです。

——長野オリンピックを見てカーリングを志したそうですね。

1998年に長野オリンピックで初めてカーリングを見て感動し、その年の秋、軽井沢中学校のカーリング部に入部しました。中学2年の時です。カーリング部は1年前からあり、みんなけっこう上手にストーンを投げていました。でも僕はまったくの初心者で、実際やってみると思ったより難しかったです。

——軽井沢でカーリングが普及したのは、いつ頃からですか。

長野オリンピックの10年ぐらい前からすでにカーリングをやっている人がいました。だから軽井沢にはカーリングの歴史が30年ぐらいある。そういう下地があってスカップ軽井沢ができ、オリンピック招致にもつながったと思います。それを見て僕たちが育ち、SC軽井沢クラブが生まれて平昌オリンピックに出場したのですから、まさに長野オリンピックのレガシーですね。

——カーリングの魅力は何ですか。

カーリングには、石を投げたり、ブラシで氷を掃いたりといういろんな役割があるのですが、僕は作戦を立てて指示を出すスキップをやっています。カーリングは「氷上のチェス」といわれるように、石を置く位置に意味があり、見ていてすごくおもしろい。アイスホッケーのように見ている側に考える時間を与えない競技と違い、カーリングは観戦している人たちにも選手と一緒に考える時間がありま

す。テレビ中継では休憩時間に選手が話している内容まで聞こえます。そこがカーリングのおもしろさであり、チェスや将棋に似ているところだと思います。

——平昌オリンピック後、カーリングに興味を持つ人がどんどん増えていきますね。

軽井沢アイスパークでも体験会がたくさん開かれています。新幹線なら東京から1時間ほどの地の利のよさもあり、初めて体験する方が大勢軽井沢を訪れています。1時間ほどで誰でも簡単にストーンを投げられるようになりますし、上達の早さが楽しめるスポーツなので、多くの皆さんに気軽に楽しんでほしいです。そのなかから、競技者として取り組む人材が現れてくれたらいいと思います。

——男女年齢問わず楽しめそうなスポーツですね。

カーリングが盛んなカナダでは、シニアの方が集まって試合をしている姿をよく見ました。選手としても40代ぐらいまで活躍でき、競技人生が長い。体力や体調に応じて楽しめるスポーツなので、生涯スポーツとして多くの人に楽しんでほしいと願っています。

——軽井沢町のスポーツ振興において、スポーツコミュニティ軽井沢クラブはどんな役割を果たすのでしょうか。

スポーツコミュニティ軽井沢クラブは、2004年にNPO法人として設立された総合型地域スポーツクラブで



両角友佑(もろずみ・ゆうすけ)

1985年生まれ、軽井沢町出身。2005年に男子カーリングチームSC軽井沢クラブを結成し、日本カーリング選手権大会で8回優勝。世界選手権では16年4位、17年7位に入り、長野オリンピック以来20年ぶりとなるオリンピック出場権を獲得。男子カーリング日本代表として2018年平昌オリンピックに出場し、8位入賞を果たす。チームでは司令塔となるスキップ、弟の公佑はリードを務めている。NPO法人スポーツコミュニティ軽井沢クラブ勤務。



平昌オリンピックのSC軽井沢クラブ(写真:エンリコ/アフロスポーツ)

す。カーリングやフットサルをはじめ、いろいろなスポーツを愛好する有志が集まって、町のスポーツ文化を発展させていこうと、さまざまな活動をしています。僕はスポーツコミュニティ軽井沢クラブの仕事しながら、オリンピックをはじめ競技活動を支えてもらっています。

——アスリートとして両角さんがしていきたいことはどんなことでしょうか。

僕は軽井沢町に生まれ、ここでずっとプレーをしてきました。でも、平昌オリンピックに日本代表として出場して、あらためて軽井沢だけでなく、日本各地にこの町のようなカーリング文化が根付かなければ、日本チームの強化はできないと痛感しました。日本でのカーリングの歴史は浅く、競技を続ける環境も良いとはいえません。そんななかで、軽井沢町は施設や選手育成ノウハウがそろそろカーリング先進地です。この環境をフルに生かして、僕はこれからも世界選手権などに挑戦し続けたい。僕が活躍することで、軽井沢のカーリング文化が発展し、軽井沢がリードして日本全体に広がり、代表選手の育成にもつながればいいと思っています。



SC軽井沢クラブ、左から両角友佑、清水徹郎、山口剛史、両角公佑、平田洸介選手



パブリックビューイングの様子



軽井沢を舞台にした
唯川さんの作品

種まきインタビュー③ 創作の森

作家 唯川 恵さん

自然の中の生活から生まれる人との縁、 ここには心地良い暮らしの風土がある

※インタビューの内容・プロフィール等は取材当時のものです。

——軽井沢に住もうと思ったきっかけを教えてください。

2003年に移住して15年目に入りました。引っ越しの理由は、セントバーナード犬が東京では飼えなかったからです。当時はすでに新幹線がありましたし、東京から1時間ほどでこんなに涼しい場所に來られることがわかって、移住を決めました。とても遠いと思っていましたが、実際はあまりに近くてびっくりしました。

今では犬がここに連れてきてくれたんだと思いながら快適に暮らしています。

——暮らしてみてもうの印象はどうか。

夏は本当に気持ちよく過ごせるので快適でしたが、冬は予想以上の寒さです。こんな寒いところで暮らせるかしら、と思っていましたが、今、どの季節がいちばん好きかと聞かれたら、「冬」と答えると思います。

まず風景が美しい。雪が降ると、周辺の木々がクリスマスツリーのようになって、すごくきれいです。故郷・金沢の冬も雪が多くてきれいです。それとはまた違う、もっと氷に近い透明な白さを感じます。

また、冬の晴れた日には、青空と雪景色、離山と浅間山が鮮明に見えるので、それを眺めるだけでも感動します。

——執筆活動の環境としていかがでしょうか。

何といっても自然の豊かさ。それがいちばんの魅力だと思います。執筆中はいわば別の世界に生きているので、ふと手を止めて窓の外に目をやり、現実に帰ったとき、

最初に目に入るのが木々だったり鳥だったり、そんな光景に出合えるのはたまらない魅力ではないかと思います。

都会で聞こえてくる音は車の音や人工音ばかりでしたが、今聞こえてくるのはすべて自然が発する音です。心地良く、執筆にとっても良い環境だと私は思います。

——暮らし方は変わりましたか。

東京では夜型でしたが、軽井沢は夜10時にはお店が閉まるので、基本的に10時には寝て朝5時に起きるようになりました。本当に健康的な生活です。軽井沢にいて、自分の生活を自然に合わせることができる。だからホッとするし、一人の人間として、自然の中で生きていくとはどういうことか、身に染みてわかる気がします。

——交流という面ではいかがでしょうか。

軽井沢は“大人のまち”で、お客様が心地良く感じる接し方を地元の方がよく知っています。程良い距離感を持って付き合ってくれるので、自然でいられます。お店に入っても、作家も俳優も政治家も実業家も関係なく一人の大人として、おいしいお酒を飲み、おいしい高原野菜を食べて、みんな一緒だね、という感じが互いに気持ち良い。とくに私は日中仕事をがんばったら、夜は一杯飲みたいタイプですから。

実際、軽井沢に来てから友人が増えました。お店で何度か顔を合わせるうちに、いつしか隣に座って話すようになり、親しくなって互いの家を行き来したりするよう



唯川 恵(ゆいかわ・けい)

1955年生まれ、石川県金沢市出身。金沢女子短期大学(現金沢学院短大)卒業後10年間のOL生活を経て、1984年『海色の午後』で集英社コバルト・ノベル大賞を受賞し、作家デビュー。直木賞を受賞した『肩ごしの恋人』は、テレビドラマ化もされた代表作。2003年から軽井沢に住み、軽井沢を舞台にした作品もある。



中軽井沢図書館にて

になりました。そんな関係もあるというのは、軽井沢に来て驚いたことです。

軽井沢に住む作家とも友人感覚で会うようになりました。馳星周さんは作風が私と対極にあり、話すこともないと思っていましたが、今では一緒に山に登っている仲です。東京にいたら、このような交流はなかったと思います。

——軽井沢に望むことは何でしょうか。

開発が進んで、夜中の孤独感も含めて自然を味わうことが難しくなっているのが寂しいと思います。家の近くにあった大きなオオヤマザクラも、開発によって伐採されてしまいました。数百年かけて育ってきた木には、そう簡単に出合えません。土地が持つ大切な財産を守っていく制度ができてほしいと思います。

軽井沢は特別なブランドだと思います。そのブランドをいかに壊さず守り続けていくかが大事ではないでしょうか。住民の方々が守ってきたものは失くしたくないと感じます。



中軽井沢図書館の「軽井沢ゆかりの作家」コーナー



浅間山の外輪山、黒斑山(くろふやま)にて



種まきインタビュー④ウエディングと観光

軽井沢観光協会副会長 ^{すずき たけお}鈴木 健夫さん(旧軽井沢ホテル音羽ノ森)

ウエディングを通じて軽井沢は家族の原点に— 海外にも高原リゾートの魅力を広げたい

※インタビューの内容・プロフィール等は取材当時のものです。

—軽井沢でのウエディングは、いつから始まったのでしょうか。

約70年前でしょうか、聖パウロ教会や現在の軽井沢高原教会(旧名は星野遊学堂)が始まりです。軽井沢はもともと外国人宣教師によって避暑地としての歴史が始まった町です。外国の方やキリスト教関係の方も多く住んでいましたから、当初はそのような方々の結婚式が行われていました。

避暑地として発展するにつれ、別荘やホテルとともに教会もたくさんできてきました。昔は結婚式といえば、地元で多くの列席者と呼んで行るのが主流でしたが、軽井沢は新郎新婦2人だけ、あるいは家族やごく親しい友人とだけという式が多かったんです。

そして1990年頃から芸能人の挙式や、馬車に乗って新郎新婦が登場する高原リゾートウエディングが報道されて、式数は急激に増えました。ピークは2000年頃で、年間6500組ほど。ここ数年は5000組ほどで横ばいを維持しています。

—人口減少・晩婚化の中でウエディングを維持していくのは大変だと思いますが。

国内の婚姻数は現在63万件ほど。そのうち式を挙げるのは7割弱で、残りの3割強はいわゆる“ナシ婚”の方です。結婚式をしない方々に結婚式の意義を伝えながら、「家族や親しい友人だけでも気楽に結婚式を挙げていい

んだよ」ということも浸透させていく必要があると思っています。10年前、そういった結婚式の意義や軽井沢ウエディングの良さを伝えるために「軽井沢ウエディング協会」を設立して活動を始めました。現在13施設が加盟しています。

—軽井沢ウエディングの魅力は。

いま国内で最も挙式数が多いのは沖縄で、平成28年度は1万5000組を超えています。ハワイに代わる南国リゾートとしてニーズが高い。一方で軽井沢は、宣教師が開いた避暑地であり、歴史的に裏づけのある結婚式にふさわしい場所。本物の教会式で挙げられる、そこがいちばんの魅力です。

首都圏からは時間的にも費用的にも訪れやすいので、結婚してから思い出の教会で気持ちを確認しあったり、子どもを連れて訪れたり、実際そういうご家族は多いです。教会の前で家族の記念写真を撮っていたりします。

当ホテルでも親子二世代で挙式されたご家族もいますし、聖パウロ教会などでは三世代にわたるご家族もいるでしょう。軽井沢は世代を超えて、家族をつないでいける魅力あふれる高原リゾートです。列席者も呼びやすく、スポーツやショッピングなどの楽しみも備えていますから、参列したあと宿泊をして軽井沢を好きになる方もいらっしやいます。

海外客の挙式も増えていますが、アジア圏の人たちに



鈴木健夫(すずき・たけお)

旧軽井沢地区の老舗ホテル、株式会社音羽ノ森代表取締役。1997年から同ホテルに勤務し、総支配人を経て現在に至る。軽井沢の自然に魅了され、町内の各団体の要職を兼任。月一回、スタッフによる町内清掃のボランティア活動に取り組み、東日本大震災後は、岩手県大槌町を支援する軽井沢大槌会の代表として支援活動にも積極的に取り組んでいる。



軽井沢ウエディング

も軽井沢ウエディングの魅力をPRしていきたいと思っています。ただ、英国領だった香港を除けば、アジア諸国に教会式は浸透していないので、宗教にこだわらない人前式や雪を生かした冬の結婚式など、リゾート地としての軽井沢ウエディングをアピールしたいと考えています。

—軽井沢の観光の未来はどう描いていますか。

インバウンドが重要だと思います。とくに欧米の方にも軽井沢の個性、成熟した文化が息づく高原リゾート地であることをPRしたいです。軽井沢を拠点にして長期滞在してもらい、東京や金沢へ足を伸ばしてもらおう。それには宿泊施設が長期滞在に向けたサービスの充実を図っていくことが大事だと思います。

軽井沢は、普通の観光地にせず、人々が憧れる町にしたほうが良いと思っています。たとえば、ゴミ一つ落ちていないきれいな町に—。早急に取り組んでほしいのは、2次交通の整備です。たとえば、ヨーロッパのように自転車と一緒にバスに乗り、バスを降りたらサイクリングをしてまたバスで戻る。そのようなアクセスを整備できれば、より世界的な高原リゾートになる可能性を持っていると期待しています。



聖パウロ教会



婚姻届を受け付ける役場窓口



軽井沢町キャラクター
RUIZA(ルイザ)ちゃん

種まきインタビュー⑤ まちづくり、ひとつづくり

軽井沢町長 藤巻 進

軽井沢町が持つ潜在能力を発掘し、 世界に誇れるまちをつくらう

——町長としての任期中にG7・G20が開催され、発地市庭(ほっちいちば)もオープンして順調に推移しています。最初に、まちづくりの基本的な姿勢からお聞かせください。私は、軽井沢町が持っている可能性、潜在的な力をどう発掘して町の資源=宝にしていけるか、ということを中心に考えてきました。もともと軽井沢は高原野菜の産地だったのに、その魅力が観光の後ろに隠れていました。今は発地市庭によって産地としての魅力を多くの人に伝え、高原野菜は町の宝物になりつつあります。

G7に続いて2019年にG20の「持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が開催されました。本来、人口2万人規模の小さな町が世界的な会議の開催地になることは考えられませんでした。立候補したときに県も政府も後押ししてくれました。これも軽井沢町が持つ潜在的な力だと思います。

——軽井沢町のファン、サポーターもたくさんいるということですね。

分母を人口2万人の長野県北佐久郡の町とすれば、分子はほとんどの国民に知られている知名度です。天皇皇后両陛下をはじめ、政財界の要人や文化人が保養に訪れる緑豊かな町——このイメージを支えていくには私たちだけの力ではできません。そこで外部の力が必要になります。一例として、平成30年4月には東京大学・信

州大学との提携があります。医療をはじめ地域課題の解決に取り組む講座を開設することができました。これによって町が暮らしやすくなると同時に、さまざまな情報を発信していければ、分母はさらに膨らんでいくと期待しています。

——ひとつづくりという点ではいかがでしょうか。

行政にできることは限界がありますが、単に学校の成績を上げるだけでなく、強い子に育てたいという思いを持って取り組んでいます。将来の夢、目的をもって、逆風の中でもそこに向かって歩いていく強さ——それが「こぶし教育」です。

県立の軽井沢高校、私立の「ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン(以下、「UWC ISAK」)」についても、町としてしっかり関わっていきます。世界各国から選抜されているUWC ISAKの子どもたちは、町内の学校との交流にも積極的で、町の行事にも参加してくれます。青春の多感な時期を軽井沢で過ごし、母国に帰って活躍する子どもたちですから、軽井沢のファンが世界に増えることにもつながります。まだ始まったばかりですが、将来が楽しみです。

——2014年に50年後、100年後を見据えた「軽井沢グランドデザイン」を発表しました。未来への思いを聞かせてください。

この町がどうして今の地位を築けたか、100年の歴史



藤巻 進(ふじまき・すすむ)

1951年生まれ、軽井沢町出身。軽井沢高原文庫理事長、軽井沢青年会議所理事長、軽井沢ナショナルトラスト副会長、軽井沢観光協会会長、軽井沢ウエディング協会代表などを歴任。1995年～2007年まで軽井沢町議会議員、2011年より軽井沢町長に就任し、現在3期目。趣味は読書と音楽・映画鑑賞。



軽井沢農産物等直売施設軽井沢発地市庭

を紐とけば先輩たちが営々と築いてきた姿が見えてきます。たとえばSC軽井沢クラブがオリンピックに出場できたのも、行政が呼びかけたからではなく、町民の皆さんがそれぞれの立場で頑張った、長野オリンピックから20年かけてできたこと。それだけ町民の皆さんの意識が高いのです。

その意識の高さこそが町のポテンシャルです。これまで多くの人が軽井沢に滞在して、良いイメージを発信してくれました。しかしそれだけでブランドイメージが高くなったわけではありません。たとえば自然保護対策要綱などの軽井沢ルールを、住民の方、別荘所有者の方々がときには我慢しながらもしっかり守り、積み重ねてきた結果だと思っています。つまり住民の皆さんが町を磨いてきたのです。

国内において軽井沢町は、避暑地として知られていますが、世界的に見ればまだまだです。最近では積極的な誘致活動の成果もあってアジアのお客さまがたくさん訪れるようになりましたが、軽井沢の自然の魅力は欧米の方々にも楽しんでもらいたい。皆さんの高い意識をもってさらにこの町の魅力を引き出し、世界に誇れる「特別な町」としてのブランドイメージを高めていきたいと思います。

G20：20カ国・地域が参加する国際会議。G20の日本開催は初であり、首脳会議のほかに8つの関係閣僚会合が開催された。このうち軽井沢町では、2019年6月15日・16日に「持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が開催された。

UWC ISAK：2014年に開校した、国際バカロレア資格を持つ全寮制私立高校。2017年8月から、本部をロンドンに置く非営利の国際学校の集合体UWCの加盟校となる。

こぶし教育：軽井沢町の教育理念。心豊かでたくましく軽井沢の子どもの育成。

「こ」……こころ豊かに
「人」「物」「環境」への思いやりを備えた人の育成に努めます。

「ぶ」……ぶんかを育て
国際親善文化観光都市にふさわしい人の育成に努めます。

「し」……しぜんを愛する
軽井沢の自然を愛し、自然環境を守り続ける人の育成に努めます。

SC軽井沢クラブ：NPO法人スポーツコミュニティ軽井沢クラブ。軽井沢町において総合型地域スポーツクラブを運営するNPO法人

未来の町を描いた軽井沢グランドデザイン像(作画：イマイカツミ)



軽井沢マップ

KARUIZAWA MAP



主な公共施設

行政施設

軽井沢町役場 長倉2381-1 TEL.0267-45-8111(代表)

観光関係施設

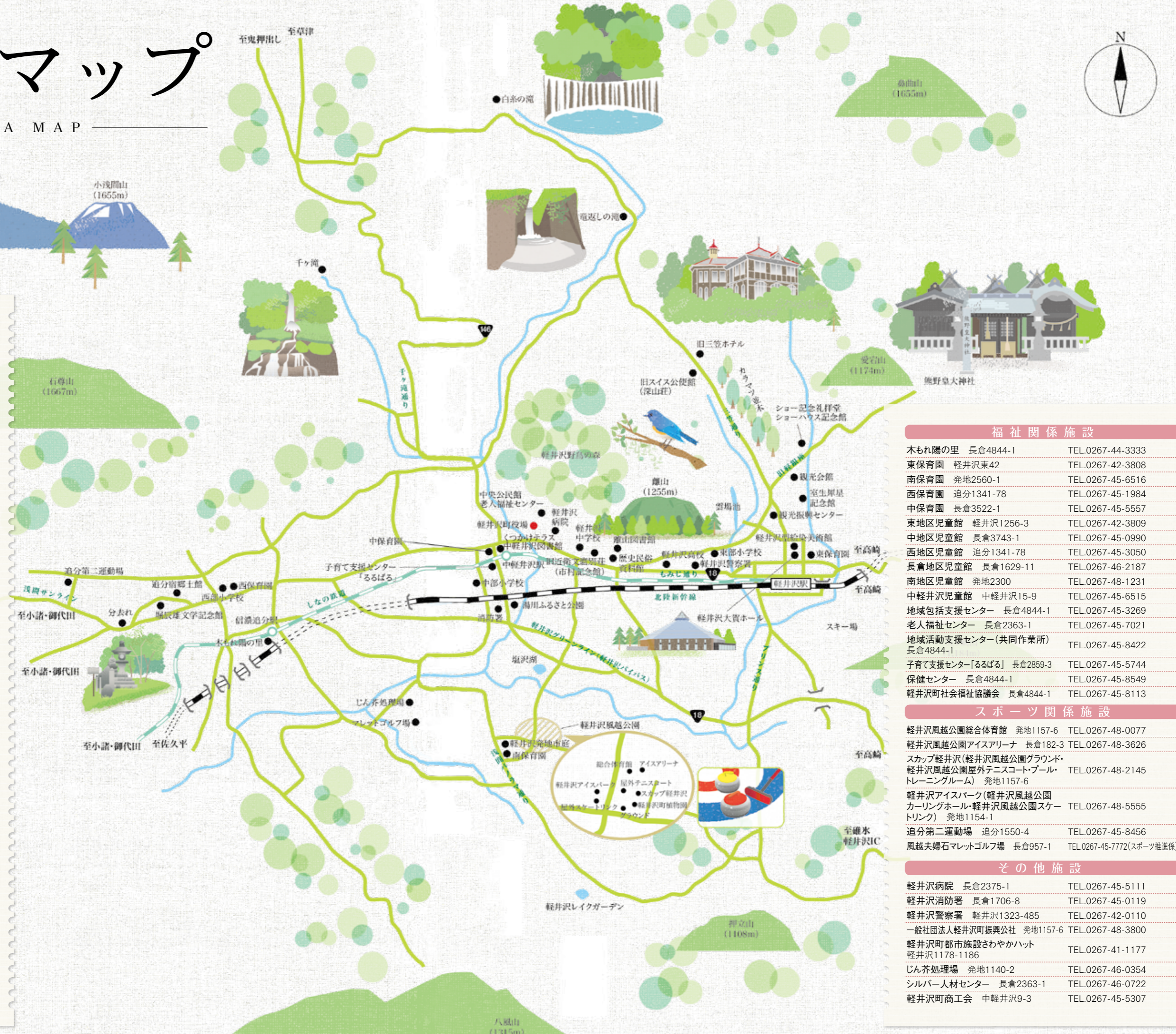
- くつかけテラス 長倉3037-18 TEL.0267-41-0743
- 軽井沢観光会館 軽井沢739-2 TEL.0267-42-5538
- 軽井沢駅内観光案内所 軽井沢1178-1186 TEL.0267-42-2491
- 中軽井沢駅内観光案内所 長倉3037-18 TEL.0267-45-6050
- 旧軽井沢駐車場 軽井沢207-1 TEL.0267-42-3107
- 軽井沢町観光振興センター 軽井沢470-3 TEL.0267-41-5001
- 一般社団法人軽井沢観光協会 軽井沢470-3 TEL.0267-41-3850
- 軽井沢発地市庭 発地2564-1 TEL.0267-45-0037

教育関係施設

- 東部小学校 軽井沢1249 TEL.0267-42-2684
- 中部小学校 長倉3734 TEL.0267-45-5189
- 西部小学校 追分1136 TEL.0267-45-1052
- 軽井沢中学校 長倉2447-1 TEL.0267-45-6180
- 軽井沢高等学校 軽井沢1323-43 TEL.0267-42-2390
- ユナイテッドワールド・カレッジISAKジャパン 長倉5827-136 TEL.0267-46-8623
- 軽井沢幼稚園 軽井沢786-1 TEL.0267-42-3071
- 聖パウロ幼稚園 長倉3324-3 TEL.0267-45-5262
- 中軽井沢図書館 長倉3037-18 TEL.0267-41-0850
- 離山図書館 長倉2112-118 TEL.0267-42-3187
- 歴史民俗資料館 長倉2112-101 TEL.0267-42-6334
- 追分宿郷土館 追分1155-8 TEL.0267-45-1466
- 堀辰雄文学記念館 追分662 TEL.0267-45-2050
- 旧三笠ホテル 軽井沢1339-342 TEL.0267-42-7072
- 軽井沢町植物園 発地1166 TEL.0267-48-3337
- 中央公民館 長倉2353-1 TEL.0267-45-8446
- 軽井沢型絵染美術館 軽井沢1178-1233 TEL.0267-42-6064
- 旧近衛文麿別荘(市村記念館) 長倉2112-21 TEL.0267-46-6103
- ショーハウス記念館 軽井沢57-1 TEL.0267-45-8695
- 室生犀星記念館 軽井沢979-3 TEL.0267-45-8695
- 公益財団法人軽井沢大賀ホール 軽井沢東28-4 TEL.0267-42-0055

上下水道関係施設

- 上水道管理センター 長倉2328-22 TEL.0267-45-8657(水道施設係)
- 軽井沢浄化管理センター 長倉918-4 TEL.0267-45-8592(下水道施設係)
- 軽井沢西浄化センター 長倉4861-1 TEL.0267-45-8592(下水道施設係)
- 発地地区農業集落排水処理施設 発地2506 TEL.0267-45-8592(下水道施設係)
- 杉瓜地区農業集落排水処理施設 発地2840-36 TEL.0267-45-8592(下水道施設係)
- 茂沢地区農業集落排水処理施設 茂沢874-3 TEL.0267-45-8592(下水道施設係)



福祉関係施設

- 木もれ陽の里 長倉4844-1 TEL.0267-44-3333
- 東保育園 軽井沢東42 TEL.0267-42-3808
- 南保育園 発地2560-1 TEL.0267-45-6516
- 西保育園 追分1341-78 TEL.0267-45-1984
- 中保育園 長倉3522-1 TEL.0267-45-5557
- 東地区児童館 軽井沢1256-3 TEL.0267-42-3809
- 中地区児童館 長倉3743-1 TEL.0267-45-0990
- 西地区児童館 追分1341-78 TEL.0267-45-3050
- 長倉地区児童館 長倉1629-11 TEL.0267-46-2187
- 南地区児童館 発地2300 TEL.0267-48-1231
- 中軽井沢児童館 中軽井沢15-9 TEL.0267-45-6515
- 地域包括支援センター 長倉4844-1 TEL.0267-45-3269
- 老人福祉センター 長倉2363-1 TEL.0267-45-7021
- 地域活動支援センター(共同作業所) 長倉4844-1 TEL.0267-45-8422
- 子育て支援センター「るるる」 長倉2859-3 TEL.0267-45-5744
- 保健センター 長倉4844-1 TEL.0267-45-8549
- 軽井沢町社会福祉協議会 長倉4844-1 TEL.0267-45-8113

スポーツ関係施設

- 軽井沢風越公園総合体育館 発地1157-6 TEL.0267-48-0077
- 軽井沢風越公園アイスアリーナ 長倉182-3 TEL.0267-48-3626
- スカップ軽井沢(軽井沢風越公園グラウンド・軽井沢風越公園屋外テニスコート・プール・トレーニングルーム) 発地1157-6 TEL.0267-48-2145
- 軽井沢アイスバーク(軽井沢風越公園) ケーリングホール・軽井沢風越公園スケー(トリック) 発地1154-1 TEL.0267-48-5555
- 追分第二運動場 追分1550-4 TEL.0267-45-8456
- 風越夫婦石マレットゴルフ場 長倉957-1 TEL.0267-45-7772(スポーツ推進係)

その他施設

- 軽井沢病院 長倉2375-1 TEL.0267-45-5111
- 軽井沢消防署 長倉1706-8 TEL.0267-45-0119
- 軽井沢警察署 軽井沢1323-485 TEL.0267-42-0110
- 一般社団法人軽井沢町振興公社 発地1157-6 TEL.0267-48-3800
- 軽井沢町都市施設さわやかハット 軽井沢1178-1186 TEL.0267-41-1177
- じん芥処理場 発地1140-2 TEL.0267-46-0354
- シルバー人材センター 長倉2363-1 TEL.0267-46-0722
- 軽井沢町商工会 中軽井沢9-3 TEL.0267-45-5307

まちづくりの“今”
「自然と文化が
奏でる軽井沢」

軽井沢町は明治19年(1886)A・C・ショー師によって避暑地として紹介されて以来、わが国を代表とする保健休養地として歩んできました。そして大正12年(1923)、人口約5000人で町制を敷き、軽井沢町が誕生。それから95年になります。

この間、「軽井沢ルール」ともいうべき開発規制や、「町民憲章」にうたわれた高い志で、清らかな環境を守り、かおり高い文化を紡いできました。そして、平成25年度からは10年間の第5次となる長期振興計画を定め、「自然と文化が奏でる軽井沢」を基本理念として、まちづくりを進めています。

すでに前期計画は終了し、現在は目標とする令和4年度(2022)までの後期計画を推進しています。これまでの軽井沢独自の取り組みや、この5年間の成果を含め、計画の基本方針に基づいてまちづくりを進める軽井沢町の「今」を紹介します。

第5次軽井沢町長期振興計画

- | 基本方針 |
- 森と高原の快適環境
 - 交流を促す円滑交通
 - 災害に強い安全・安心のまち
 - 軽井沢ブランドを活かした交流のまち
 - 安心して暮らせる健康福祉のまち
 - 人を育てる教育・文化
 - 住民が主役の協働参画のまちづくり
 - 持続と自律の地域主権

森と高原の快適環境

自然と人が共生する環境を 次世代に残すために

浅間山の麓、標高900mの高原にカラマツの林がつかられ、この冷涼な環境に魅せられた人々が別荘を建て始めた近代。以来、軽井沢町は長い時間をかけて国際保健休養地として独自の発展をとげてきました。この森と高原が醸し出す快適な環境こそ、私たちが大切にしている財産です。

私たちは、自然と人の暮らしがともにある環境の保全と育成に努めるとともに、暮らす人、訪れる人を魅了する、保健休養地にふさわしい美しいまちなみの形成を目指します。さらに、徹底したごみの分別や自然エネルギーを最大限に活用するなど環境負荷の軽減を図りつつ、快適な居住環境の整備、環境都市にふさわしい生活・社会環境の整備を推進。私たちが誇りとする、美しい環境を未来に引き継いでいきます。



木々より高い建物が見えない軽井沢町の景観



湯川ふるさと公園



大賀通り



千ヶ滝せせらぎの道



広葉樹の森を再生する「どんぐり返し」の植樹



野生動物について、 もっと知り、伝え、 軽井沢の自然を守りたい

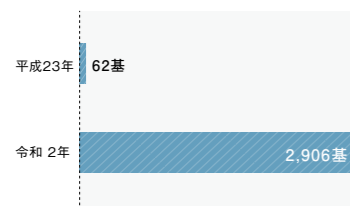
子どものころから自然が大好きで、大学時代には人々の癒やしの場、学びの場となっているアメリカの国立公園で、人々が自然に触れあう姿を見てきました。日本でもそのような場をつくりたいという思いを持ってピッキオに来ました。

軽井沢は森の中にある町なので、クマ、ムササビ、ニホンリス、イノシシなど、多くの野生動物が人の身近で暮らしています。癒しを感じる一方で、時には軋轢も生じます。そんな彼らの生態を調べ、町内外の多くの人に知ってもらったり、適切にすみ分ける方法を模索したりすることで、かけがえのない軽井沢の自然を守りたいです。

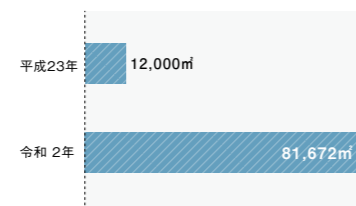
♪奏でる人たち♪
ピッキオ 森 孝之さん



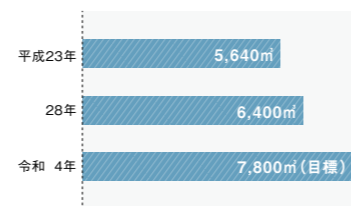
▶ 町道のLED防犯灯数



▶ 公共施設の芝生化



▶ 貯木場チップ加工搬出量



▶ 環境を守るための主な取り組み

- ・ 建物の高さは10m以下(2階)、近隣商業地域のみ13m以下(3階)。
- ・ 景観条例・景観形成住民協定に準拠して周辺景観に配慮する。
- ・ 建物の色は彩度4以下とし、周辺と調和した色調とする。
- ・ 深夜の静穏の保持のため、店舗の営業時間は夜11時まで。
- ・ のぼり旗、移動式看板及び電光看板は設置不可。

交流を促す円滑交通

道路網の整備と公共交通ネットワークで、歩いて楽しい、そして便利なまちをつくる

上信越自動車道、北陸新幹線で首都圏や北陸圏からのアクセスが飛躍的に向上していますが、圏央道(首都圏中央連絡自動車道)の整備により成田方面からも高速道路で直結されました。さらに中部横断自動車道の整備も進み、広域交通の利便性が一層高まります。

一方、町内の交通では、夏季やゴールデンウィークに来訪者が集中するために発生する、交通渋滞対策が大きな課題となってきました。このため、広域交通から町内交通まで、円滑に流れる安全・快適な道路交通網の整備を進めています。また、パーク&レールライドシステムの導入など、しなの鉄道、路線バス、町内循環バスの利便性を高めて利用促進を図っています。

こうした公共交通ネットワークの充実、景観形成、徒歩・自転車による移動環境の確保などにより、車に依存しない交通社会をめざします。



軽井沢駅

♪奏でる人たち♪
JR軽井沢駅 駅長
(取材当時)
たけはなひろおみ
竹花寛臣さん



最初に出会う「軽井沢の顔」のような場所、また来たくなるおもてなしを

軽井沢駅から乗車するお客さまは、10年前は1日平均2800人でしたが、平成27年には3600人に増えました。昔から皇室関係の方々も利用される駅で、最近では海外からのお客さまも増えています。かつてはゴールデンウィークと夏季に集中していましたが、今は1年を通してにぎわいます。旧正月を挟む1~3月はアジアからの旅行者が多いため、安全面には一層の注意を払っています。

鉄道を利用される方々にとって、軽井沢駅は最初に出会う「軽井沢の顔」のような場所。駅員一同プライドとプロ意識をもってお客さまに接し、「軽井沢に来てよかった! また来たい」と思っただけのよう軽井沢らしいおもてなしを心がけています。



(旧)軽井沢駅舎を活用したしなの鉄道軽井沢駅



サイクリングも軽井沢の魅力



借宿バイパスに導入されたラウンドアバウト交差点

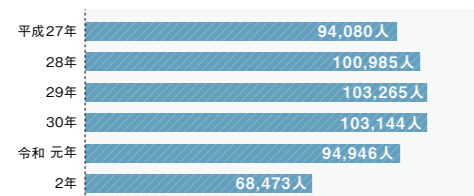


町内循環バス

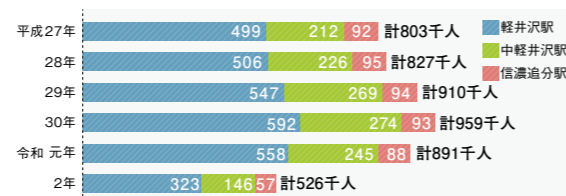


パーク&レールライド(中軽井沢駅)

▶ 町内循環バスの利用状況

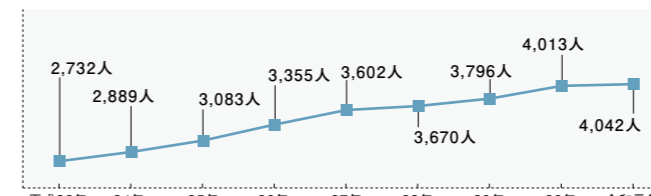


▶ しなの鉄道の利用状況 (乗車数)



資料:しなの鉄道株式会社

▶ JR軽井沢駅の1日平均乗車人数



資料:東日本旅客鉄道(株)長野支社 軽井沢駅

災害に強い安全・安心のまち

自然災害、交通事故、犯罪から 地域みんなのスクラムで暮らしを守る



軽井沢消防署の救助訓練

♪奏でる人たち♪

軽井沢町消防団
(取材当時)
さとうよしと
団長 佐藤淑人さん



365日、自分たちの地域は 自分たちで守る

軽井沢町消防団は、3分団12部300人からなる防災組織。団員は「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識でボランティア活動に参加しています。地域の防災意識は高く、私たちが「365日地域を守る」という覚悟があります。

悩みは団員数が減っていることです。私自身は21歳で入団したので、ぜひ若い人に入団してほしいです。ときには吹雪の中や夜間の消火活動があり、厳しい事もありますが、仲間や先輩との訓練は達成感があり、楽しい事もたくさんあります。活動を通じてできる地域や人とのつながりは仕事にも大きなプラスになるはず。男女問わず、消防団員を募集しております。みんなで自分たちの地域を守っていきましょう。



消防団の出初式



活火山・浅間山の麓に位置する軽井沢町は、火山活動や集中豪雨による災害が発生しやすい環境にあるため、地域防災計画を策定し、防災・減災への対応に取り組んでいます。具体的にはさまざまな災害を想定した防災訓練、消防団や自主防災組織の育成、ハザードマップの配布やホームページ、メールを通じた情報提供など、防災・危機管理体制を強化して、大規模災害から住民・来訪者の安全・安心確保に努めています。

また、観光地としての性格から多くの車が流入し、交通事故の危険性も高くなっています。その対策として、交通安全教室を開いて安全に対する意識を高めるとともに、カーブミラーなどの道路設備の整備を進めるなど、ハード・ソフト両面から交通事故を減らす体制づくりを進めています。さらに防犯についても、地域のさまざまな団体と連携して防犯意識を高め、地域ぐるみの防犯体制を充実させていきます。

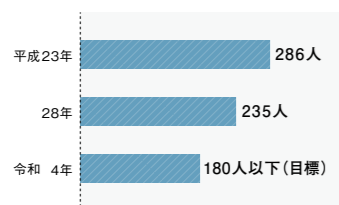


保育園の交通安全教室

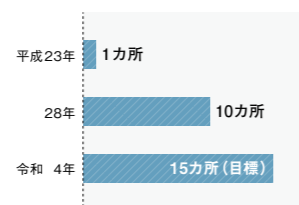


消防団の出初式

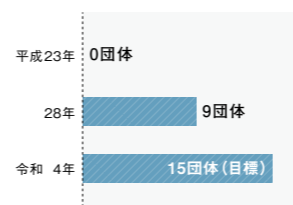
▶ 交通事故年間負傷者数



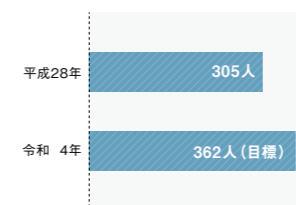
▶ 災害用備蓄品の配分



▶ 自主防災組織設立数



▶ 消防団員数



軽井沢ブランドを活かした交流のまち①

自然・伝統に、新しい軽井沢文化を加え、四季を通じて訪れたいくなるまちに—

軽井沢町の130年以上積み重ねた保健休養地としての伝統は、軽井沢ならではの別荘文化を育て、現在の町の基幹産業である観光の基礎をつくってきました。かつて外国人宣教師が「屋根のない病院」とたたえた自然は、今も変わらぬ輝きを放ち、多くの人々をひきつけています。

この自然と伝統を背景に、軽井沢らしい魅力的な文化イベントの開催、トレッキングなどのエコツーリズム、スポーツイベントを通じたスポーツツーリズム、コンベンションの誘致促進によるリゾート会議都市、ウエディングなどの魅力あるコンテンツの充実を図り、より質の高い受け入れ環境の整備を推進しています。これらの施策により、国の内外の人々が、「四季を通じて訪れたいくなるまち」「何度でも訪れたいくなるまち」をめざします。



軽井沢観光会館



旧軽銀座のにぎわい



軽井沢ハーフマラソン



軽井沢ウインターフェスティバル



ホリデーウォーク



浅間山ビュースポット

♪奏でる人たち♪

軽井沢ブライダル情報センター
ウエディングプランナー
こあいざわ
小相沢なおみさん



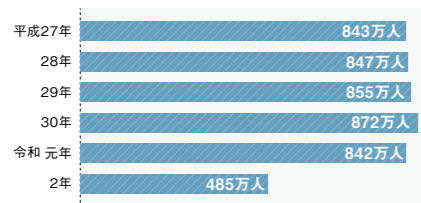
幸せな結婚式から生まれる軽井沢のリピーター

「結婚式の準備ってどうするの?」「軽井沢でどんな結婚式ができる?」…さまざまな方がご相談にいらっしゃいます。なぜ「軽井沢で結婚式を」と考えたのか、どんな方たちとその日を過ごしたいか、そして結婚式をする理由など、いろんなこととお話ししながら、その方たちにふさわしいスタイルをご提案させていただきます。

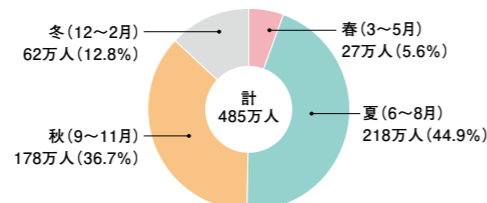
招かれるゲストのなかには軽井沢を初めて訪れる方も少なくありません。新郎新婦はもちろん、ゲストの皆さまも幸せな軽井沢ウエディングを経験された方は必ず軽井沢が大好きになり、また遊びにいらしたり軽井沢の魅力をクチコミで広めてくださいます。私たちの仕事は、そんな軽井沢ファンを増やすことにつながると信じています。



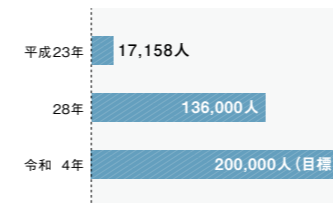
▶ 観光客数の推移



▶ 季節別の観光客数(令和2年度)



▶ 外国人宿泊者数



軽井沢ブランドを活かした交流のまち②

観光と文化、商工業・農業が一体となって 新しい軽井沢の魅力を創出する

軽井沢町では基幹産業の観光がけん引役となって、他の産業も発展してきました。観光を核に、文化と産業が融合した総合交流文化産業こそ、軽井沢ならではの産業のあり方ととらえています。この強みを存分に活用し、産業間の連携をいっそう強めて6次産業として一体的な発展の可能性を追求します。

商工業では商工会と連携して、軽井沢らしい魅力をもった「軽井沢ブランド」の特産品の開発を支援し、別荘文化を支えてきた伝統ある商店街の魅力づくり、歩行者空間の整備などに力を入れています。

また、高原特有の気象条件を生かした高原野菜を中心とする農業では、「軽井沢霧下野菜®」としてブランド化を図り、軽井沢町農産物等直売施設軽井沢発地市庭(ほっちいちば)を通じて、地産地消を推進しています。農業・林業の振興は、美しい里地・里山づくりにつながり、さらに観光として新しい価値を生み出します。



高原野菜



発地市庭に並ぶ軽井沢ブランド

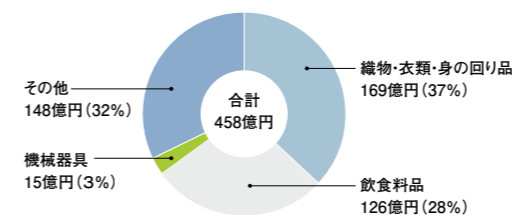


軽井沢町農産物等直売施設軽井沢発地市庭

発地市庭に並ぶ霧下野菜®



▶ 小売業の品目別販売額(平成26年)



軽井沢影の衝立

安心して暮らせる健康福祉のまち

医療・健康づくり、子育て環境、地域福祉…地域ぐるみでユニバーサル社会の実現を



軽井沢病院



児童館



「木もれ陽の里」水中運動室



乳児健診



保育園の運動会

「安心して暮らせる健康福祉のまち」をめざす軽井沢町では、町立の軽井沢病院を中核として、住民や滞在客の医療ニーズに対応する医療体制を整えています。また保健と福祉の拠点である「木もれ陽の里」を中心に、健康増進と疾病予防、リハビリや福祉などを一体とする総合的な体制を築き、健康づくりを支援しています。

次世代を担う子どもの育成では、子育て支援センターを中心として地域が子育てを支援する体制を充実させ、すべての小学校区に放課後子ども教室を行う児童館を設置しました。また、18歳までの医療費無償化も実現しました。

健康寿命の伸長と、介護が必要となっても安心できる高齢者福祉、だれもが幸せに生活できる障がい者福祉の充実も大きな課題です。軽井沢町では、さまざまな関係機関と連携しながら、だれもが充実した自分らしい人生を送れるように、ハード・ソフト両面から支援の仕組みづくりに努め、地域ぐるみでユニバーサル社会の実現をめざします。

♪奏でる人たち♪

つちやかよ NPO法人四季 代表 土屋佳代さん

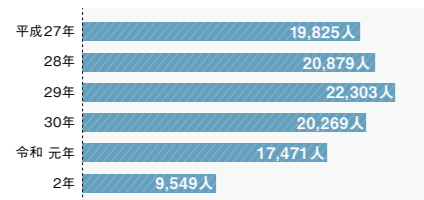


障がいがある人も普通に暮らせる町を

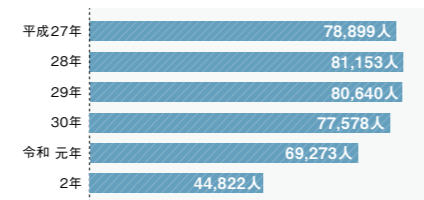
私たちは障がい者が利用するグループホームを運営し、就労支援や生活介護などの支援事業を行っています。2017年4月には、町の協力を得て障がい児の通所支援事業所「にじいろポケット」を立ち上げることができました。今10人の子どもたちが発達支援や放課後デイサービスを利用してくださっています。

私たちがめざすのは、障がいがあっても仕事があり、それを継続していける町、自分の生活を自分なりに築いていける社会。障がい者が地域の中で特別な存在と見られることなく、その人らしく暮らしていけるまちづくりです。軽井沢町は福祉施設が充実しつつあります。軽井沢町なら私たちがめざす理想の町ができると信じて活動していきます。

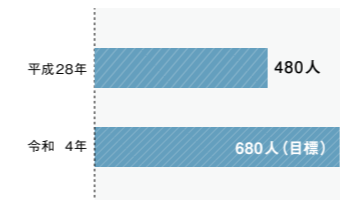
▶ 老人福祉センター利用者数



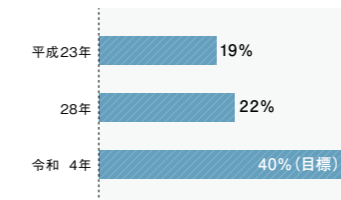
▶ 児童館利用者数



▶ 子育て支援センターの登録者数



▶ がん検診受診率



人を育てる教育・文化

「こぶし教育」でたくましい子どもたちを育て、生涯学習・生涯スポーツを楽しめるまちに—



軽井沢中学校外観

軽井沢町では、心豊かでたくましい子どもの育成をめざして、「こぶし教育」を実践してきました。町内の私立幼稚園2園、保育園4園、小学校3校、中学校1校、県立軽井沢高等学校、全寮制の国際高校「ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン」では、連携・交流により教育内容を充実させ、グローバル社会で個性を輝かせる人材育成に努めています。「いつでも、だれでも、どこでも」学び、スポーツを楽しむ環境が整っていることも、軽井沢町の誇りです。大正時代に始まり100年の伝統を誇る軽井沢夏期大学や、「軽井沢学」の講演なども開催される「くっつけテラス」内の中軽井沢図書館、カーリングの国際大会も開催される総合的なスポーツ施設が集まる風越公園など、生涯学習、生涯スポーツの環境整備が進んでいます。町に残る多彩な文化財や保養地文化の蓄積も活用し、国際親善文化観光都市としての資質をさらに磨いていきます。



風越公園のスポーツ施設



中軽井沢図書館



軽井沢夏期大学



県内最古といわれる熊野皇大神社の狛犬



県指定文化財、峠のシナノキ

♪奏でる人たち♪

軽井沢中学校で
イマージョン教育を担当する
トーマス・ランドル
(Thomas Randall) 先生



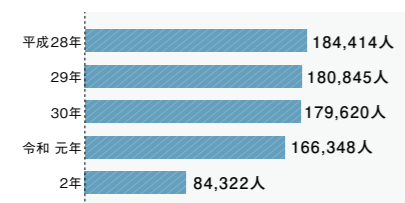
世界的な視野で考え、
地域で活動する
“Think globally, Act locally!”

イマージョン教育は、いろいろな教科を英語を使いながら学ぶという教育です。最初は生徒たちと日本語を交えてコミュニケーションをとっていましたが、生徒たちが英会話に慣れるのは早かったです。でも、友だちの前では恥ずかしがるので、個人的に質問をするようにしています。体育の授業では、生徒も答えやすいのかコミュニケーションが深まり、給食の時間には食べながらクイズを出すと、そこからたくさん話題が広がります。

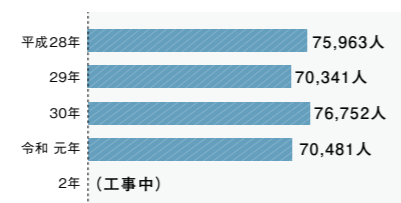
私は日本に来るまでに、世界のいろいろな国を回ってきました。その経験で得たのは、“Think globally, Act locally!”ということ。これを軽井沢の子どもたちにもしっかり伝えていきたいと思っています。



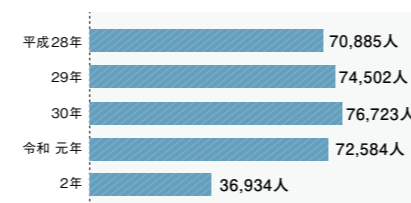
▶ 町立図書館の利用者数



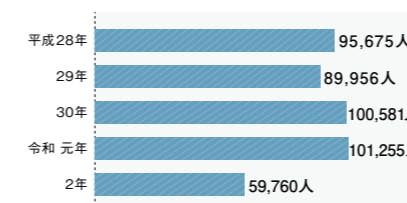
▶ 旧三笠ホテル入館者数



▶ スカップ軽井沢の利用者数



▶ 風越公園総合体育館利用者数



住民が主役の協働参画のまちづくり 地域の絆を育み、情報を共有して 町と住民の信頼関係を築く

災害の経験などを通じて、地域の絆の重要性に対する認識が高まっています。軽井沢町は新たに転入してくる人が多く、地域コミュニティの形成が難しい面がありますが、文化・スポーツなどのさまざまなイベントを活用し、相互交流を促進しています。また、地域の課題を住民が主体的に考え、行政と協働して解決していける仕組みづくりを進めています。

住民参画の基盤となるのは、行政に関する情報です。軽井沢町では、「広報かるいざわ」をはじめ、ホームページやメール配信システムで行政情報を提供し、町長への手紙、移動町長室、さまざまなアンケートや会議を通じて住民の声を聞き、住民と行政の信頼関係を基にまちづくりを進めています。



花いっぱい運動

ボランティアによるごみゼロ運動



さわやか軽井沢交流会

♪奏でる人たち♪
.....
軽井沢で農業を営む
あらいよしみつ
荒井芳光さん



見て美しく、食べておいしい 軽井沢産の野菜をどうぞ

農業の魅力は自然の中で働けること、そしてすべて自分の計画でできること。今栽培しているのは、レタス、サニーレタス、キャベツ、白菜などの高原野菜です。軽井沢の土は有機物を多く含み、保水性、透水性に優れた「黒ぼく土」で、しかも夏の気候が冷涼で寒暖差が大きいので、柔らかく本当においしい野菜ができます。誰が見てもきれいでおいしいと思ってもらえるよう品質に気を使って大切に育てていますので、ぜひ食べてみてください。

畑を有効利用するため、夏秋野菜の収穫後に植え付けし春先に収穫できるタマネギの栽培にもチャレンジしています。

また、グリーンシーズン以外は、スキー技術選手権の選手だった経験を生かし、スキーインストラクターを務めています。これからも地域に貢献していけるよう頑張ります。



♪奏でる人たち♪
.....
軽井沢町区長会長・追分区長
(取材当時)
おぎはらさといち
荻原里一さん

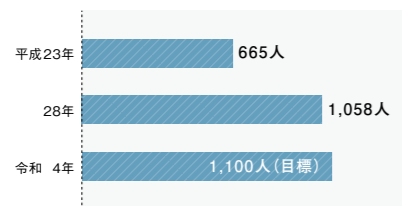
地域の力を結集して、 住みやすい軽井沢をつくる

軽井沢町には30の地区があり、各区で住民が力を合わせて景観形成など地域の課題を解決し、まちづくりを進めています。新しい軽井沢町民や別荘居住者など、未加入の世帯が多いことが各区共通の悩みですが、昔からの住民と新住民、別荘滞在者との交流

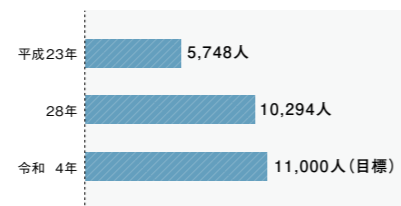
を進めるイベントなどを開催して、地域の連帯感を育てていきたいと努めています。

追分区では毎年しなの追分馬子唄道中を開催し、町を代表するイベントに成長しました。追分郷土館ができたとき、地域を盛り上げようと企画したもので、旅姿の武士や旅人を乗せた馬方が、追分で発祥し全国各地に伝えられた追分節・馬子唄を唄いながら中山道を歩きます。この祭りを通じ世代を超えた地域の結束が生まれています。

▶ ボランティア登録者数



▶ メール配信システムサービス登録者数



▶ 外国人住民人口(令和3年4月1日現在)

中国	83人	カナダ	24人	ドイツ	14人
アメリカ	82人	イギリス	21人	オーストラリア	12人
ベトナム	50人	台湾	20人	ブラジル	10人
韓国	41人	ネパール	16人	フィリピン	8人
タイ	29人	フランス	14人	その他	145人
					合計 569人

効率的な行政運営と 健全な財政運営を推進



柳澤宏 副町長 藤巻進 町長 荻原確也 教育長

本格的な地方分権時代にふさわしい自律した町をめざし、行政改革を積極的に進め、多様化・複雑化する住民ニーズに的確に応えていきます。そのためにも、健全な財政運営を継続しながら、さらに自主財源の積極的な確保を図り、効率的な財政運営を進めます。100年後の未来につながるしっかりした基盤づくりをめざしていきます。

15人の議員が、 町民の声を町政に生かします

議会

軽井沢町議会は、15人の議員によって構成され、そのうち女性議員は4人と男女共同参画が進んでいます。平成23年1月からは、効率的に議会を運営し、チェック機能等を高めるため、会期を1年間とする通年議会を実施しています。また、平成23年4月には、町政の主役である町民の負託に応えるため、町民参加型の議会をめざし、議会改革を継続し発展させるための「議会基本条例」を制定し、町民の声を町政に反映すべく活動しています。



土屋好生 議長 遠山隆雄 副議長



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アクリル板を設置しています。

軽井沢町議会

四季彩々イベントカレンダー



春 | 3~5月 |

- 若葉まつり(4月下旬~6月上旬)
- 軽井沢大賀ホール春の音楽祭(4月下旬~5月上旬)
- どんぐり返し(植樹祭、5月中旬)
- 熊野皇大神社春の大祭(5月15日)
- 軽井沢ハーフマラソン(5月下旬)

夏 | 6~8月 |

- しなの追分馬子唄道中(7月上旬)
- さわやか軽井沢交流会(7月下旬~8月上旬)
- 軽井沢ショー祭(8月上旬)
- 軽井沢夏期大学(8月2日~4日)
- 各地の花火大会(7月~8月)



秋 | 9~11月 |

- 紅葉まつり(9月下旬~11月上旬)
- ホリデーウォークin軽井沢(10月中旬)
- 熊野皇大神社秋の大祭(10月15日)
- 軽井沢リゾートマラソン(10月下旬)
- 町総合文化展(11月上旬)
- 軽井沢文化祭(11月下旬)



冬 | 12~2月 |

- 軽井沢ウインターフェスティバル(11月下旬~3月上旬)
- ホワイトクリスマスin軽井沢、スケート大会、アイスホッケー大会、カーリング大会、ウエディングイベント
- 風越公園アイススケートリンクオープン(12月~3月)
- スキー場オープン(12月~3月)



町制施行95周年記念 軽井沢町勢要覧

資料編

軽井沢国際親善文化観光都市建設法

(沿革)

日本国憲法第95条の規定に基く軽井沢国際親善文化観光都市建設法をここに公布する。

(目的)

第1条 この法律は、軽井沢町が世界において稀にみる高原美を有し、すぐれた保健地であり、国際親善に貢献した歴史的実績を有するに堪がみ、国際親善と国際文化の交流を盛んにして世界恒久平和の理想の達成に資するとともに、文化観光施設を整備充実して外客の誘致を図り、わが国の経済復興に寄与するため、同町を国際親善文化観光都市として建設することを目的とする。

(計画及び事業)

第2条 軽井沢国際親善文化観光都市を建設する都市計画(以下「軽井沢国際親善文化観光都市建設計画」という。)は、都市計画法(昭和43年法律第100号)第4条第1項に定める都市計画の外、国際親善文化観光都市としてふさわしい諸施策の計画を含むものとする。

2 軽井沢国際親善文化観光都市を建設する事業(以下「軽井沢国際親善文化観光都市建設事業」という。)は、軽井沢国際親善文化観光都市建設計画を実施するものとする。

(事業の執行)

第3条 軽井沢国際親善文化観光都市建設事業は、軽井沢町が執行する。

2 軽井沢町の町長は、地方自治の精神に則り、その住民の協力及び関係諸機関の援助により、軽井沢国際親善文化観光都市を完成することについて、不断の活動をしなければならない。

(事業の援助)

第4条 国及び地方公共団体の関係諸機関は、軽井沢国際親善文化観光都市建設事業が第1条の目的にたらし重要な意義をもつことを考え、その事業の促進と完成とにできる限りの援助を与えなければならない。

(特別の助成)

第5条 国は、軽井沢国際親善文化観光都市建設事業の用に供するため必要があると認める場合においては、国有財産法(昭和23年法律第73号)第28条の規定にかかわらず、その事業の執行に要する費用を負担する公共団体に対し、普通財産を譲与することができる。

(報告)

第6条 軽井沢国際親善文化観光都市建設事業の執行者は、その事業が速やかに完成するように努め、少なくとも6箇月ごとに、国土交通大臣にその進行状況を報告しなければならない。

2 内閣総理大臣は、毎年1回国会に対し、軽井沢国際親善文化観光都市建設事業の状況を報告しなければならない。

(法律の適用)

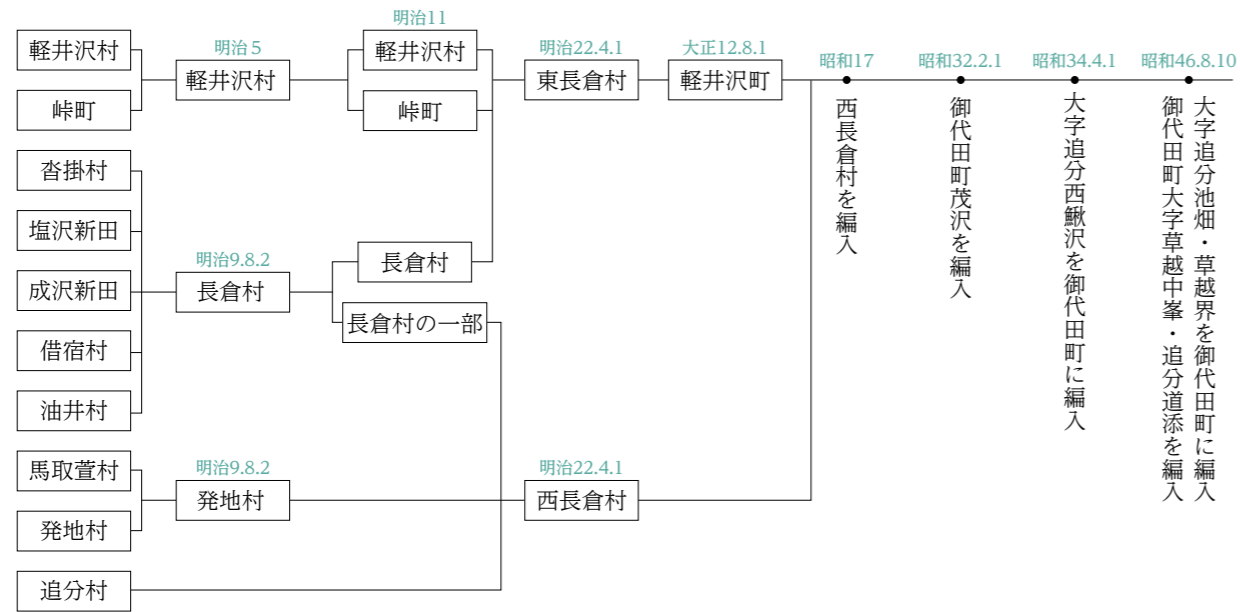
第7条 軽井沢国際親善文化観光都市建設計画及び軽井沢国際親善文化観光都市建設事業については、この法律に定めがある場合を除く外、都市計画法の適用があるものとする。

昭和26年8月15日公布
平成11年12月22日改正

この法律は、「軽井沢町」だけに適用される法律で、昭和26年(1951)に国が決めました。

沿革

明治以降の町村合併図



現在の大字

- 峠町(とうげまち) 軽井沢(かるいざわ) 長倉(ながくら)
- 発地(ほっち) 追分(おいわけ) 茂沢(もざわ) 草越(くさごえ)

区画整理に伴う町名の変更によるもの

- 軽井沢(かるいざわ) 軽井沢東(かるいざわひがし) 中軽井沢(なかかるいざわ)

気象

気象の概況

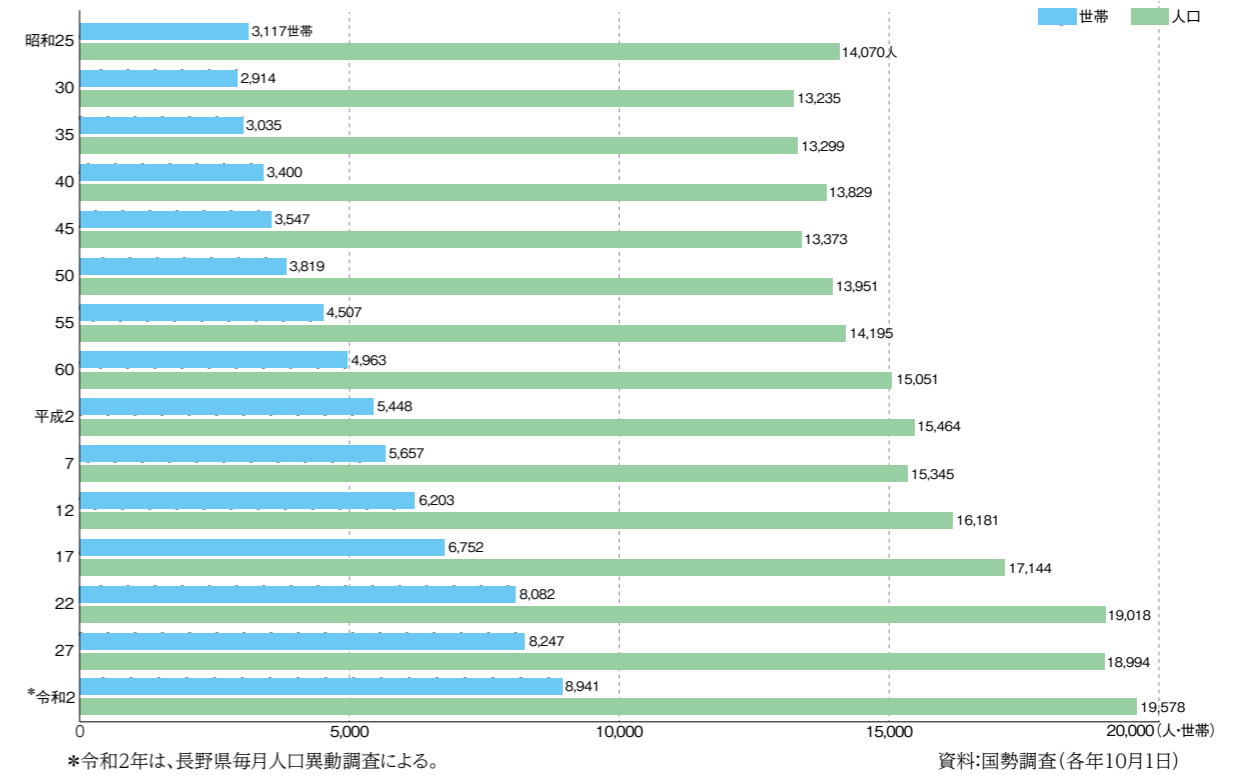
年次/項目	気温(℃)			平均湿度(%)	平均風速(m/s)	最大風速(m/s)	降水量(mm)	最深積雪(cm)	日照率(%)
	平均	最高	最低						
平成20	8.5	31.1	-15.9	83	1.7	7.1	1,258.0	29	44
21	8.7	30.1	-14.4	79	1.7	7.7	1,117.5	15	42
22	9.1	31.5	-14.8	82	1.6	7.2	1,413.5	*30	*44
23	8.5	31.2	-15.2	79	1.7	7.4	1,121.5	31	47
24	8.1	31.5	-18.6	80	1.7	7.7	1,127.5	26	45
25	8.8	33.5	-15.8	77	1.7	7.1	964.5	27	48
26	8.3	31.5	-14.2	78	1.7	7.5	1,343.5	99	47
27	9.0	31.9	-13.7	81	2.3	9.0	1,178.0	34	45
28	9.1	30.8	-16.0	83	2.3	9.3	1,377.0	51	45
29	8.3	30.3	-15.0	81	2.3	10.3	1,255.0	37	50
30	9.3	32.9	-14.9	81	2.3	10.1	1,239.5	16	50
令和元	9.0	31.5	-11.3	83	*2.3	*12.3	1,530.0	16	*46
2	9.2	31.9	-13.0	84	2.2	9.6	1,391.0	28	45

*は期間内に20%以上の欠測を含む資料不足値

資料:長野地方気象台

人口

人口及び世帯数の推移

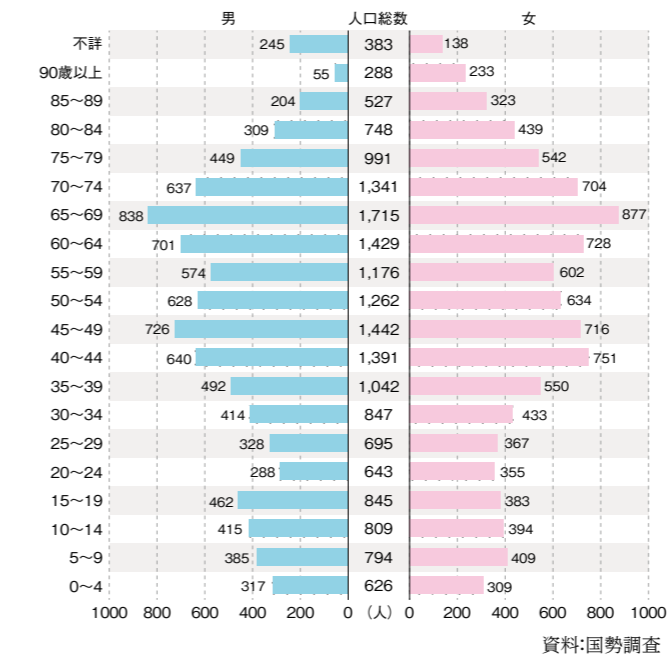


*令和2年は、長野県毎月人口異動調査による。

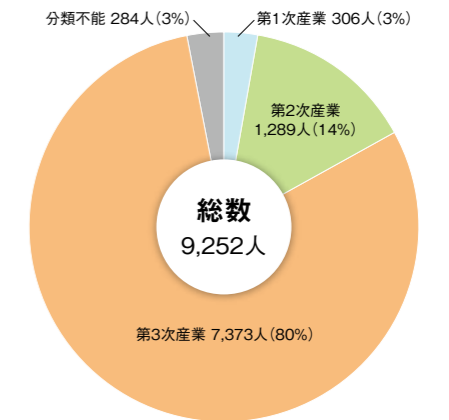
資料:国勢調査(各年10月1日)

年齢別人口(平成27年)

人口総数 18,994人(男 9,107人、女 9,887人)

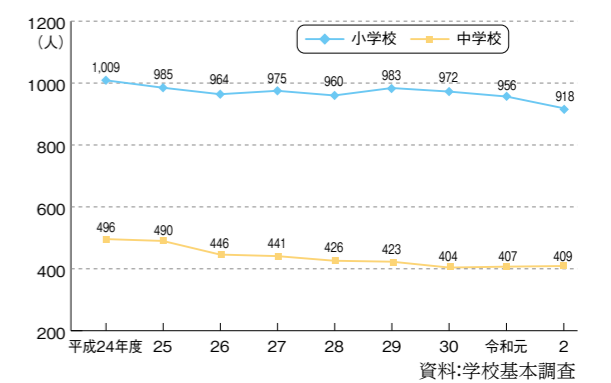


産業分類別就業者人口(平成27年)



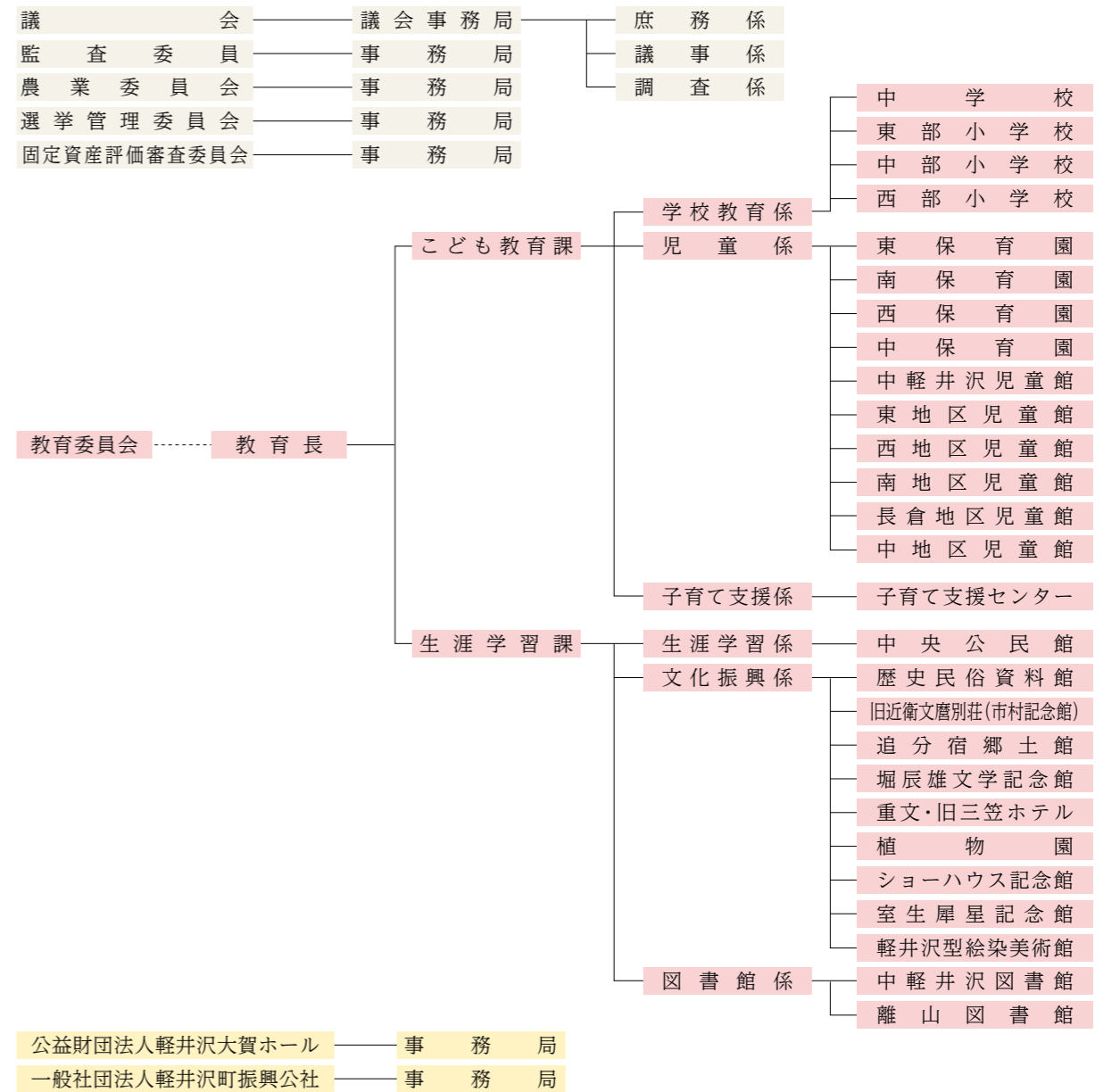
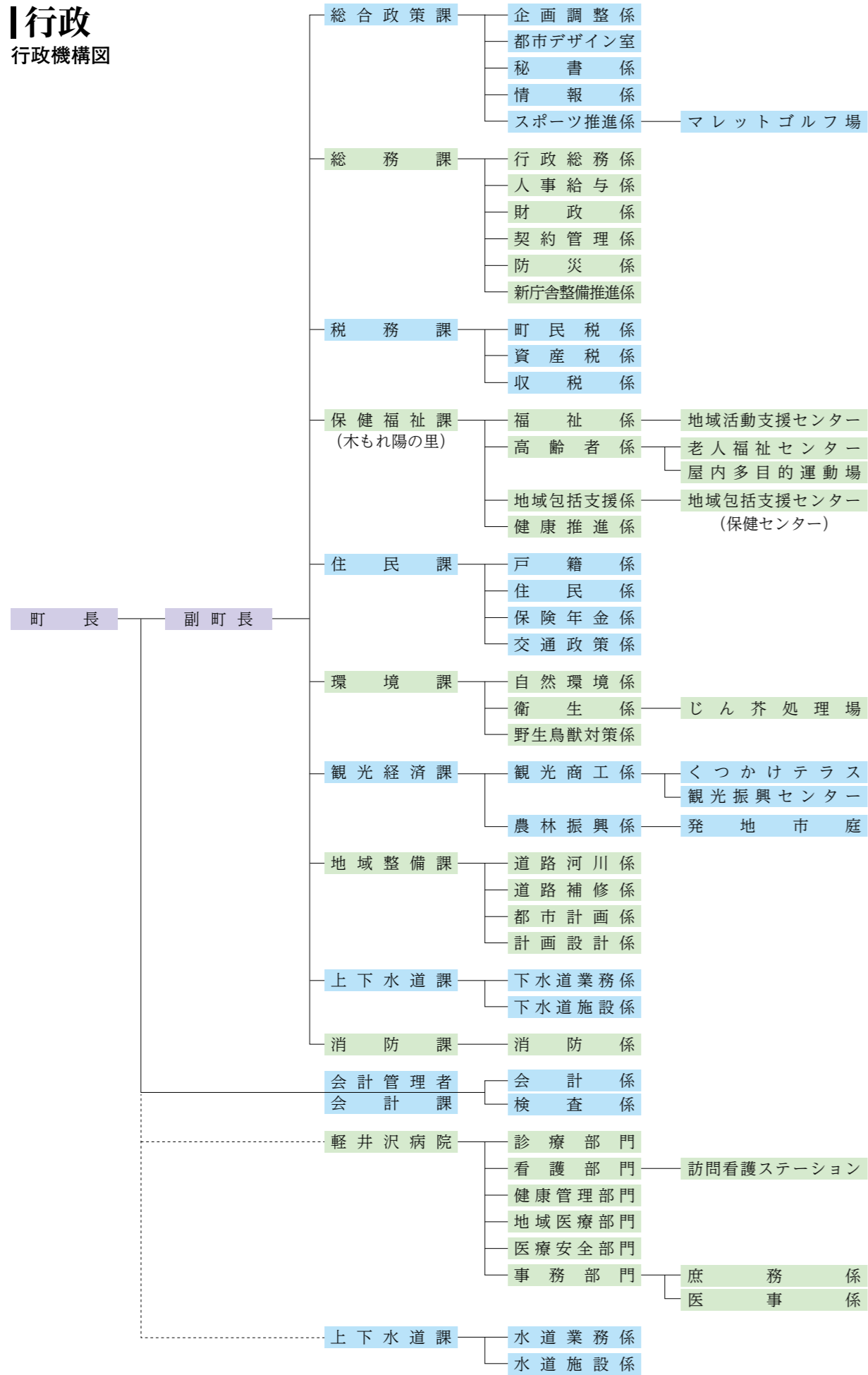
資料:国勢調査

児童・生徒数の推移

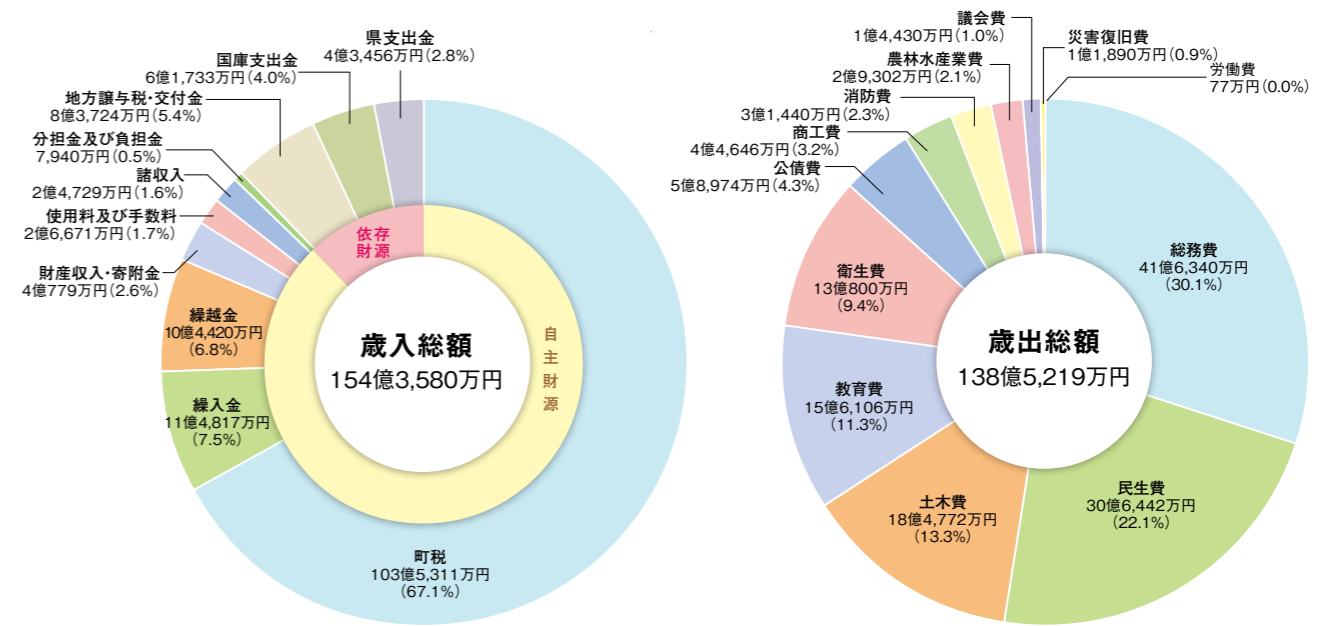


資料:学校基本調査

行政 行政機構図



令和元年度一般会計決算状況



歴代町長

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	土 屋 三 郎	大正12年 8月 ~ 大正13年 7月
2代	佐 藤 直 吉	大正13年 7月 ~ 昭和 3年 7月
3代	佐 藤 直 吉	昭和 3年 7月 ~ 昭和 7年 7月
4代	佐 藤 直 吉	昭和 7年 7月 ~ 昭和10年 4月
5代	川 嶋 深 周	昭和10年 4月 ~ 昭和12年 2月
6代	土 屋 源 一 郎	昭和12年 2月 ~ 昭和16年 2月
7代	土 屋 源 一 郎	昭和16年 2月 ~ 昭和20年 2月
8代	土 屋 源 一 郎	昭和20年 2月 ~ 昭和21年 5月
9代	佐 藤 恒 雄	昭和21年 5月 ~ 昭和22年 4月
10代	佐 藤 恒 雄	昭和22年 4月 ~ 昭和26年 4月
11代	佐 藤 恒 雄	昭和26年 4月 ~ 昭和30年 4月
12代	佐 藤 不 二 男	昭和30年 5月 ~ 昭和34年 4月
13代	佐 藤 不 二 男	昭和34年 4月 ~ 昭和38年 4月
14代	佐 藤 不 二 男	昭和38年 4月 ~ 昭和40年 3月
15代	佐 藤 今 朝 市 郎	昭和40年 4月 ~ 昭和44年 4月
16代	佐 藤 今 朝 市 郎	昭和44年 4月 ~ 昭和47年 5月
17代	佐 藤 正 人	昭和47年 6月 ~ 昭和51年 6月
18代	佐 藤 正 人	昭和51年 6月 ~ 昭和55年 6月
19代	佐 藤 正 人	昭和55年 6月 ~ 昭和59年 6月
20代	佐 藤 正 人	昭和59年 6月 ~ 昭和63年 6月
21代	佐 藤 正 人	昭和63年 6月 ~ 平成 2年12月
22代	松 葉 邦 男	平成 3年 2月 ~ 平成 7年 2月
23代	松 葉 邦 男	平成 7年 2月 ~ 平成11年 2月
24代	佐 藤 雅 義	平成11年 2月 ~ 平成15年 2月
25代	佐 藤 雅 義	平成15年 2月 ~ 平成19年 2月
26代	佐 藤 雅 義	平成19年 2月 ~ 平成23年 2月
27代	藤 卷 進	平成23年 2月 ~ 平成27年 2月
28代	藤 卷 進	平成27年 2月 ~ 平成31年 2月
29代	藤 卷 進	平成31年 2月 ~

歴代助役

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	土 屋 量	大正13年 8月 ~ 大正13年 9月
2代	甲 田 良 吉	大正15年 7月 ~ 昭和 5年 7月
3代	土 屋 信 作	大正15年 9月 ~ 昭和 5年 9月
4代	甲 田 良 吉	昭和 5年 7月 ~ 昭和 5年 9月
5代	土 屋 信 作	昭和 5年 9月 ~ 昭和 7年 3月
6代	細 江 七 兵 衛	昭和 8年 3月 ~ 昭和10年 4月
7代	川 嶋 深 周	昭和10年 1月 ~ 昭和10年 4月
8代	大 工 原 滝 三 郎	昭和10年 4月 ~ 昭和13年 3月
9代	大 工 原 滝 三 郎	昭和13年 3月 ~ 昭和17年 2月
10代	大 工 原 滝 三 郎	昭和17年 2月 ~ 昭和21年 2月
11代	長 谷 川 信 蔵	昭和18年 3月 ~ 昭和19年11月
12代	佐 藤 恒 雄	昭和21年 3月 ~ 昭和21年 5月
13代	宮 沢 博 通	昭和21年 6月 ~ 昭和23年 4月
14代	行 田 義 雄	昭和23年 5月 ~ 昭和27年 5月
15代	市 村 桂 一	昭和27年12月 ~ 昭和31年12月
16代	市 村 桂 一	昭和33年 1月 ~ 昭和38年 4月
17代	佐 藤 一 二	昭和38年 6月 ~ 昭和40年11月
18代	水 沢 邦 喬	昭和41年 1月 ~ 昭和45年 1月
19代	佐 藤 主 計 男	昭和45年 6月 ~ 昭和49年 6月
20代	佐 藤 主 計 男	昭和49年 6月 ~ 昭和53年 6月
21代	佐 藤 主 計 男	昭和53年 6月 ~ 昭和57年 6月
22代	山 田 増 二	昭和57年 6月 ~ 昭和61年 6月
23代	山 田 増 二	昭和61年 6月 ~ 平成 2年 6月
24代	山 田 増 二	平成 2年 6月 ~ 平成 3年 3月
25代	土 屋 哲	平成 3年 4月 ~ 平成 7年 3月
26代	中 山 恭 成	平成 7年 4月 ~ 平成11年 2月
27代	村 沢 文 一	平成11年 4月 ~ 平成15年 3月
28代	中 島 勝 重	平成15年 4月 ~ 平成19年 3月

歴代副町長

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	中 島 勝 重	平成19年 4月 ~ 平成21年 3月
2代	井 出 和 年	平成21年 5月 ~ 平成23年 2月
3代	藤 田 喜 人	平成23年 3月 ~ 平成27年 3月
4代	柳 澤 宏	平成27年 4月 ~ 平成31年 3月
5代	柳 澤 宏	平成31年 4月 ~

歴代教育長

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	土 佐 英 一	昭和27年10月 ~ 昭和31年 9月
2代	土 屋 長 平	昭和31年10月 ~ 昭和35年 9月
3代	土 屋 長 平	昭和35年10月 ~ 昭和38年 9月
4代	土 屋 貢	昭和38年10月 ~ 昭和39年 9月
5代	土 屋 貢	昭和39年10月 ~ 昭和43年 9月
6代	土 屋 貢	昭和43年10月 ~ 昭和47年 9月
7代	土 屋 貢	昭和47年10月 ~ 昭和51年 9月
8代	土 屋 貢	昭和51年10月 ~ 昭和54年 3月
9代	山 田 増 二	昭和54年 7月 ~ 昭和55年 9月
10代	山 田 増 二	昭和55年10月 ~ 昭和57年 6月
11代	土 屋 信 雄	昭和57年 6月 ~ 昭和59年 6月
12代	飯 島 喜 典	昭和59年 7月 ~ 昭和59年 9月
13代	飯 島 喜 典	昭和59年10月 ~ 昭和63年 9月
14代	飯 島 喜 典	昭和63年10月 ~ 平成 3年 3月
15代	山 口 良 造	平成 3年 4月 ~ 平成 4年 9月
16代	山 口 良 造	平成 4年10月 ~ 平成 8年 9月
17代	佐 藤 榮 一	平成 8年10月 ~ 平成12年 9月
18代	依 田 龍 治	平成12年10月 ~ 平成16年 9月
19代	井 出 和 年	平成16年10月 ~ 平成20年 9月
20代	佐 藤 一 郎	平成20年10月 ~ 平成23年 2月
21代	荻 原 勝	平成23年 4月 ~ 平成24年 9月
22代	荻 原 勝	平成24年10月 ~ 平成28年 9月
23代	荻 原 勝	平成28年10月 ~ 令和 元年 9月
24代	荻 原 確 也	令和 元年10月 ~

歴代収入役

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	石 田 潤 吉 郎	大正13年 1月 ~ 昭和 3年 1月
2代	石 田 潤 吉 郎	昭和 3年 1月 ~ 昭和 5年 5月
3代	小 宮 山 重 雄	昭和 6年 3月 ~ 昭和10年 2月
4代	土 屋 勝 治	昭和10年 6月 ~ 昭和14年 6月
5代	土 屋 勝 治	昭和14年 6月 ~ 昭和18年 6月
6代	土 屋 勝 治	昭和18年 6月 ~ 昭和21年12月
7代	土 屋 昂	昭和21年12月 ~ 昭和25年12月
8代	土 屋 昂	昭和25年12月 ~ 昭和29年12月
9代	土 屋 昂	昭和29年12月 ~ 昭和31年 6月
10代	行 田 義 雄	昭和31年 6月 ~ 昭和34年 6月
11代	行 田 義 雄	昭和34年 6月 ~ 昭和38年 4月
12代	松 本 敏 夫	昭和38年 6月 ~ 昭和40年11月
13代	荒 井 吉 忠	昭和41年 4月 ~ 昭和45年 3月
14代	荒 井 吉 忠	昭和45年 6月 ~ 昭和49年 6月
15代	荒 井 吉 忠	昭和49年 6月 ~ 昭和53年 6月
16代	荒 井 吉 忠	昭和53年 6月 ~ 昭和57年 6月
17代	中 村 文 雄	昭和57年 6月 ~ 昭和61年 6月
18代	土 屋 哲	昭和61年 7月 ~ 平成 2年 7月
19代	土 屋 哲	平成 2年 7月 ~ 平成 3年 3月
20代	中 山 恭 成	平成 3年 4月 ~ 平成 7年 3月
21代	水 澤 巧	平成 7年 4月 ~ 平成11年 3月
22代	水 澤 巧	平成11年 4月 ~ 平成13年 3月
23代	土 屋 光 一	平成13年 5月 ~ 平成15年 3月

議会

歴代議長

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	細 江 七 兵 衛	昭和22年 5月 ~ 昭和26年 5月
2代	細 江 七 兵 衛	昭和26年 5月 ~ 昭和28年 3月
3代	上 原 文 次 郎	昭和28年 3月 ~ 昭和30年 4月
4代	遠 山 民 次 郎	昭和30年 5月 ~ 昭和32年 5月
5代	遠 山 民 次 郎	昭和32年 5月 ~ 昭和34年 4月
6代	土 屋 節 人	昭和34年 5月 ~ 昭和38年 4月
7代	土 屋 節 人	昭和38年 5月 ~ 昭和42年 4月
8代	土 屋 節 人	昭和42年 5月 ~ 昭和42年 9月
9代	土 屋 節 人	昭和42年 9月 ~ 昭和42年10月
10代	佐 藤 長 治	昭和42年10月 ~ 昭和44年 6月
11代	土 屋 栄 吉	昭和44年 6月 ~ 昭和46年 4月
12代	市 村 文 彦	昭和46年 5月 ~ 昭和48年 6月
13代	市 村 文 彦	昭和48年 6月 ~ 昭和50年 4月
14代	田 村 寅 次 郎	昭和50年 5月 ~ 昭和52年 6月
15代	土 屋 岩 一	昭和52年 6月 ~ 昭和54年 4月
16代	市 村 理 一	昭和54年 4月 ~ 昭和56年 6月
17代	篠 原 剛	昭和56年 6月 ~ 昭和58年 4月
18代	上 原 藤 夫	昭和58年 5月 ~ 昭和60年 6月
19代	小 林 正 直	昭和60年 6月 ~ 昭和62年 5月
20代	金 井 正	昭和62年 5月 ~ 平成元年 6月
21代	金 井 正	平成 元年 6月 ~ 平成 3年 4月
22代	小 川 太 郎	平成 3年 5月 ~ 平成 5年 6月
23代	小 川 太 郎	平成 5年 6月 ~ 平成 7年 4月
24代	井 出 精 一	平成 7年 5月 ~ 平成 9年 4月
25代	竹 内 侶 章	平成 9年 4月 ~ 平成11年 4月
26代	土 屋 正 治	平成11年 4月 ~ 平成13年 4月
27代	岩 井 征 太 郎	平成13年 4月 ~ 平成15年 4月
28代	行 田 増 次 郎	平成15年 4月 ~ 平成17年 4月
29代	内 堀 次 雄	平成17年 4月 ~ 平成19年 4月
30代	袖 山 卓 也	平成19年 5月 ~ 平成21年 4月
31代	荻 原 宗 夫	平成21年 4月 ~ 平成23年 4月
32代	大 林 義 博	平成23年 5月 ~ 平成25年 5月
33代	篠 原 公 子	平成25年 5月 ~ 平成27年 4月
34代	内 堀 次 雄	平成27年 5月 ~ 平成29年 5月
35代	市 村 守	平成29年 5月 ~ 平成31年 4月
36代	佐 藤 敏 明	令和 元年 5月 ~ 令和 3年 5月
37代	土 屋 好 生	令和 3年 5月 ~

歴代副議長

歴 順	氏 名	就任・退任年月
初代	遠 山 民 次 郎	昭和22年 5月 ~ 昭和26年 5月
2代	上 原 文 次 郎	昭和26年 5月 ~ 昭和28年 3月
3代	小 川 武 夫	昭和28年 3月 ~ 昭和30年 4月
4代	土 屋 節 人	昭和30年 5月 ~ 昭和32年 5月
5代	小 宮 山 磯 直	昭和32年 5月 ~ 昭和34年 4月
6代	土 屋 龜 雄	昭和34年 5月 ~ 昭和38年 4月
7代	土 屋 栄 吉	昭和38年 5月 ~ 昭和42年 4月
8代	佐 藤 長 治	昭和42年 5月 ~ 昭和42年10月
9代	遠 山 幸 雄	昭和42年10月 ~ 昭和44年 6月
10代	市 村 文 彦	昭和44年 6月 ~ 昭和46年 4月
11代	小 川 誠 一 郎	昭和46年 5月 ~ 昭和48年 6月
12代	小 川 誠 一 郎	昭和48年 6月 ~ 昭和50年 4月
13代	土 屋 吉 衛	昭和50年 5月 ~ 昭和52年 6月
14代	芝 間 文 次 郎	昭和52年 6月 ~ 昭和54年 4月
15代	篠 原 剛	昭和54年 4月 ~ 昭和56年 6月
16代	上 原 藤 夫	昭和56年 6月 ~ 昭和58年 4月
17代	小 林 正 直	昭和58年 5月 ~ 昭和60年 6月
18代	金 井 正	昭和60年 6月 ~ 昭和62年 5月
19代	小 川 太 郎	昭和62年 5月 ~ 平成元年 6月
20代	小 川 太 郎	平成 元年 6月 ~ 平成 3年 4月
21代	荻 原 節 男	平成 3年 5月 ~ 平成 5年 6月
22代	荻 原 節 男	平成 5年 6月 ~ 平成 7年 4月
23代	荒 井 芳 次	平成 7年 5月 ~ 平成 9年 4月
24代	吉 留 道 哉	平成 9年 4月 ~ 平成11年 4月
25代	行 田 増 次 郎	平成11年 4月 ~ 平成13年 4月
26代	土 屋 孝 也	平成13年 4月 ~ 平成15年 4月
27代	袖 山 卓 也	平成15年 4月 ~ 平成17年 4月
28代	寺 田 泉	平成17年 4月 ~ 平成19年 4月
29代	坂 口 宇 多 彦	平成19年 5月 ~ 平成21年 4月
30代	大 林 義 博	平成21年 4月 ~ 平成23年 4月
31代	篠 原 公 子	平成23年 5月 ~ 平成25年 5月
32代	土 屋 正 治	平成25年 5月 ~ 平成27年 4月
33代	市 村 守	平成27年 5月 ~ 平成29年 5月
34代	佐 藤 敏 明	平成29年 5月 ~ 平成31年 4月
35代	土 屋 好 生	令和 元年 5月 ~ 令和 3年 5月
36代	遠 山 隆 雄	令和 3年 5月 ~



役場庁舎

軽井沢町の文化財

国指定文化財		県指定文化財	
〈有形重要文化財〉 旧三笠ホテル 年代:明治38年 指定年月日:昭和55年5月31日	〈天然記念物(樹木)〉 長倉のハナヒョウタンボク群落 年代:数十万年前に発生 指定年月日:昭和35年2月11日	〈天然記念物(樹木)〉 峠のシナノキ 年代:推定樹齢850年 指定年月日:平成3年8月15日	

町指定文化財

〈有形民俗文化財〉 発地の石仏群 年代 江戸時代 指定年月日 昭和43年6月1日	〈記念物(史跡)〉 茂沢の南石堂遺跡 年代 縄文時代中・後期 指定年月日 昭和47年2月22日	〈記念物(史跡)〉 長倉の牧(牧堤跡) 年代 平安時代 指定年月日 昭和48年2月21日
〈記念物(史跡)〉 追分宿の分去れ 年代 江戸時代前期 指定年月日 昭和48年4月18日	〈有形民俗文化財〉 馬取の石仏群 年代 江戸時代 指定年月日 昭和48年5月7日	〈有形民俗文化財〉 峠のこまいぬ 年代 室町時代 指定年月日 昭和48年5月7日
〈有形民俗文化財〉 峠の石の風車 年代 江戸時代前期 指定年月日 昭和48年5月7日	〈有形民俗文化財〉 茂沢の五輪塔群 年代 室町時代 指定年月日 昭和48年5月8日	〈記念物(史跡)〉 追分の一里塚 年代 江戸時代初期 指定年月日 昭和48年5月8日
〈天然記念物(樹木)〉 諏訪神社社叢 指定年月日 昭和53年4月8日	〈天然記念物(樹木)〉 長倉神社社叢 指定年月日 昭和53年4月8日	〈天然記念物(樹木)〉 遠近宮社叢 指定年月日 昭和53年4月8日
〈有形民俗文化財(建造物)〉 浅間神社本殿 年代 室町時代後期 指定年月日 昭和58年7月20日	〈有形文化財(美術工芸品)〉 大般若経六百巻奥書 年代 嘉応元年~延宝3年 指定年月日 昭和58年7月20日	〈天然記念物(名勝)〉 甌穴(おうけつ) 年代 洪積世 指定年月日 昭和61年5月20日
〈有形文化財(建造物)〉 旧スイス公使館(深山荘) 年代 昭和11年頃 指定年月日 平成27年1月27日	〈有形文化財(建造物)〉 旧近衛文麿別荘(市村記念館) 年代 大正7年 指定年月日 平成28年5月24日	〈有形文化財(建造物)〉 八田別荘 年代 明治26年 指定年月日 平成29年4月25日
〈天然記念物〉 風越鷲穴半自然草原 指定年月日 平成30年3月28日	〈有形民俗文化財(石造物)〉 三面馬頭観世音菩薩 年代 嘉永6年 指定年月日 平成30年12月19日	〈有形文化財(建造物)〉 聖パウロカトリック教会 年代 昭和10年 指定年月日 平成30年12月19日
〈有形文化財(建造物)〉 黄壁布屋 年代 江戸時代 指定年月日 令和2年10月23日	〈有形文化財(建造物)〉 葛屋 年代 江戸時代 指定年月日 令和2年10月23日	〈有形文化財(建造物)〉 塩沢の郷倉 年代 江戸時代 指定年月日 令和2年10月23日
〈有形文化財(建造物)〉 長倉神社本殿 年代 江戸時代 指定年月日 令和2年10月23日	〈有形文化財(建造物)〉 茂沢薬師堂 年代 江戸時代 指定年月日 令和2年10月23日	〈有形文化財(建造物)〉 杉瓜観音堂 年代 江戸時代 指定年月日 令和2年10月23日

国登録文化財

旧田中角榮家別荘 年代 大正9年 登録年月日 平成19年7月31日	三五荘(中央工学校軽井沢山荘) 年代 江戸時代末期 登録年月日 平成19年7月31日	旧鈴木歯科診療所(片岡山荘) 年代 昭和11年 登録年月日 平成20年4月18日
明治四十四年館(旧軽井沢郵便局舎) 年代 明治44年 登録年月日 平成20年4月18日	旧ライシャワー家別荘 年代 明治時代後期 登録年月日 平成25年12月24日	旧軽井沢ハウス(旧松方家別荘) 年代 昭和2年頃 登録年月日 平成25年12月24日
旧加藤家別荘 年代 昭和4年 登録年月日 平成26年4月25日	亜武巢山荘 年代 大正時代後期 登録年月日 平成26年12月19日	旧彌永家別荘 年代 昭和5年頃 登録年月日 平成27年8月4日
旧ハミルトンアンドハード軽井沢コテージ 年代 昭和7年頃 登録年月日 平成27年11月17日	山崎家及び白井家別荘(セキスイハウスA型) 年代 昭和38年 登録年月日 平成28年8月1日	睡鳩荘 年代 昭和6年 登録年月日 平成30年3月27日
旧ゾルゲンセン邸 年代 大正13年 登録年月日 平成30年3月27日	旧西川家住宅 年代 昭和3年 登録年月日 平成30年3月27日	万平ホテルアルプス館 年代 昭和11年 登録年月日 平成30年11月2日
		脇田和アトリエ山荘 年代 昭和45年 登録年月日 令和3年2月26日

K A R U I Z A W A 2 0 2 1

軽井沢町のあゆみ

次の100年への序奏

A・C・ショー師が別荘第1号を建てた明治21年(1888)から35年を経た大正12年(1923)、すでに別荘500戸、避暑客5000人を超えていた東長倉町は町制施行により軽井沢町へ。それから約1世紀、保健休養地「軽井沢」は、国内のみならず世界に知られるまでに成長してきました。今、次の100年を見すえた種まきが始まっています。

- 大正12年・東長倉村、町制をしき「軽井沢町」と改称(人口5012人、890戸)
- 大正13年・草津電気鉄道(旧草津軽便鉄道)、新軽井沢~1924 嬭恋間電化開通
- 大正14年・軽井沢町報創刊
- 大正15年・避暑団と軽井沢郵便局との協議による旧軽井沢地区ハウス番号実施
- 昭和2年・浅間山麓、結球白菜の栽培が盛んとなる
- 昭和4年・軽井沢水道完成
- 昭和5年・財団法人南ヶ丘会を組織し、新ゴルフ場建設を企画する(昭和8年完成、18ホール)
- 昭和8年・浅間山火山観測所開設
- 昭和9年・新軽井沢スケート場改修(11年竣工)
- 昭和10年・聖パウロ教会開設
- 昭和11年・草津電気鉄道、乗合自動車営業開始(峰の茶屋~長野原間)
- 昭和12年・掛掛~軽井沢駅間道路舗装着工(翌13年完成)
- 昭和13年・第1回町民体育大会開催
- 昭和14年・中央气象台軽井沢観測所開設
- 昭和15年・軽井沢商工会発足
- 昭和17年・軽井沢町、西長倉村を合併、人口8746人となる
- 昭和18年・町立軽井沢高等女学校創立
- 昭和20年・三笠ホテル・万平ホテル米陸軍に接收される
- 昭和21年・北佐久地方事務所軽井沢出張所(のちに長野東軽井沢事務所)、渉外事務を司る
- 昭和22年・満州大日向開拓団、借宿地籍国有林に入植
- 昭和23年・軽井沢町農業協同組合発足
- 昭和24年・再開第1回軽井沢夏期大学開講
- 昭和25年・学制改革により国民学校は小学校と改称(東・南・西小学校)、新制軽井沢中学校開校
- 昭和26年・天皇后、甲信越地方ご巡幸、大日向開拓地ご視察
- 昭和27年・学制改革により、軽井沢高等女学校を「長野県軽井沢高等学校」と改称
- 昭和28年・「愛泉会軽井沢治育団」三笠に開園
- 昭和29年・「財団法人軽井沢会」発足
- 昭和30年・学制改革により国民学校は小学校と改称(東・南・西小学校)、新制軽井沢中学校開校
- 昭和31年・天皇陛下、甲信越地方ご巡幸、大日向開拓地ご視察
- 昭和32年・学制改革により、軽井沢高等女学校を「長野県軽井沢高等学校」と改称
- 昭和33年・「上信越高原国立公園」指定

次の100年への序奏

- 昭和25年**
 - 国保新軽井沢診療所開設(新道つるや旅館内)
- 1950**
 - 国保杓掛診療所、清原医院宅を借用して開設
 - 軽井沢・杓掛両駅前に観光案内所を設ける
- 昭和26年**
 - 杓掛大火(罹災世帯108世帯、全焼81戸)
- 1951**
 - 「軽井沢町国際親善文化観光都市建設法」公布
 - 軽井沢町公民館発足
- 昭和27年**
 - スケートリンク5カ所整備(軽井沢・晴山・星野・雨宮・千ヶ滝室内)
 - 新軽井沢会館落成
 - 軽井沢町教育委員会発足
 - 軽井沢町国民健康保険旧軽井沢診療所開設
- 昭和28年**
 - 浅間山及び軽井沢周辺、米軍演習地の設置
- 1953**
 - 反対大会(同年7月取消し決定)
 - 保温折衷苗代の創案者「荻原豊次氏頌徳碑」建立
- 昭和29年**
 - 中学校、完全学校給食実施
- 1954**
 - 育護会「浅間学園」を開設
 - 旧軽井沢診療所が軽井沢町国民健康保険軽井沢病院へ昇格
- 昭和30年**
 - 第1回軽井沢スケート競技大会開催
- 1955**
 - 天皇・皇后両陛下、皇太子殿下ご滞在
- 昭和31年**
 - 杓掛駅を中軽井沢駅に改称
- 1956**
 - 軽井沢開発70周年記念式典挙行
 - 東・南小学校を廃校、東部・中部小学校として開校
- 昭和32年**
 - 軽井沢町名誉町民条例制定。加藤與五郎氏、名誉町民となる
- 1957**
 - 佐藤万平氏、名誉町民となる
- 昭和33年**
 - 中部小学校、体育館兼講堂落成
 - 追分公民館新築落成
 - 「軽井沢町の善良なる風俗維持に関する条例」制定公布
- 昭和34年**
 - 第1回国際親善パーティー(長野県知事、軽井沢町長共催)開催、以後恒例となる
- 1959**
 - 杓掛区を中軽井沢に改称
- 昭和35年**
 - 町章制定
- 1960**
 - 第16回国体冬季スケート競技開催
- 昭和36年**
 - 町のごみ焼却場、風越に完成
 - 東部小学校、体育館兼講堂落成
 - 塩沢湖完成(民宿4戸)

- 昭和37年**
 - 広報「かるいざわ」創刊
- 1962**
 - 「交通安全都市宣言」をする
- 昭和38年**
 - 女子・男子世界スピードスケート選手権大会開催(20カ国120名参加)
 - 信越本線、碓氷新線(横川～軽井沢間)完成
 - 軽井沢～長野間電化開通
 - 国際射撃場完成(クレー・ライフル・空気銃など)
 - 荻原豊次氏、名誉町民となる
- 昭和39年**
 - 大日向公民館落成
- 1964**
 - 社団法人軽井沢開発公社設立
 - 第18回オリンピック東京大会、総合馬術競技大会開催(12カ国48名参加)
- 昭和40年**
 - 馬取公民館落成
- 1965**
 - 横川～軽井沢間複線開通
 - 西部小学校、新校舎落成
- 昭和41年**
 - 児童・園児の通学路(東部小学校～旧軽井沢)及び県下初の自転車道(中学校～新軽井沢間)新設
 - 新軽井沢下水路工事完成
 - 社会福祉法人「軽井沢町社会福祉協議会」発足
- 昭和42年**
 - 第1回若葉まつり開催、以後恒例となる
- 1967**
 - 軽井沢南保育園開園
 - 中軽井沢児童館開館
 - 軽井沢大橋完成(高さ90m)
 - ブラジル合衆国サンパウロ州カンボス・ド・ジョルドン市と姉妹都市提携を議決
 - 町役場庁舎落成
 - 東京駅に軽井沢コーナー開設
 - 第1回紅葉まつり開催、以後恒例となる
- 昭和43年**
 - 第1回氷まつり開催、以後恒例となる
- 1968**
 - 軽井沢町消防庁舎落成、軽井沢町消防署発足
 - 旧軽井沢児童館開館
- 昭和44年**
 - 軽井沢駅前大火(全焼33戸、災害救助法発動される)
 - 「軽井沢小鳥の森」県指定となる
- 昭和45年**
 - 「軽井沢小鳥の森」県指定となる
- 1970**
 - 「軽井沢小鳥の森」県指定となる

1950～1987

- 昭和46年**
 - 旧軽井沢地区区画整理事業完了
- 1971**
 - 「軽井沢観光会館」「三度山林道」「小瀬軽井沢野営場」落成
 - 軽井沢東保育園新築移転
 - 佐久地域行政組合による軽井沢消防署発足
 - 日本道路公団と建設省により碓氷有料バイパス完成
- 昭和47年**
 - 第1回行政パトロール町内各地区で実施
- 1972**
 - 連合赤軍による「浅間山荘事件」起こる
 - 軽井沢西保育園開園
 - 新軽井沢児童館開館
 - 町長と町民との対話が、町役場で行われる(以降月2回)
 - 軽井沢町の自然保護対策要綱施行
- 昭和48年**
 - 第1次軽井沢町長期振興計画スタート
- 1973**
 - 軽井沢中保育園開園
 - ダストボックスによるごみの収集が始まる
 - 町制施行50周年記念に「軽井沢町民憲章」制定
- 昭和49年**
 - 「軽井沢町民憲章碑」庁舎西側入口に建立
 - 軽井沢町「野鳥の森」開設
 - 信濃路自然歩道完成(三笠～峰の茶屋間10.3km)
 - 普通地方交付税の不交付団体となる
 - 総合運動場が落成し、記念町民運動会開催
 - 公民館発地分館落成
 - 軽井沢病院、中軽井沢へ移設新築
 - 軽井沢バイパスに軽井沢消防署救急分駐所設置
- 昭和50年**
 - 軽井沢町健康管理センター発足
- 1975**
 - 軽井沢町植物園開園
 - 西部地区児童館開館
 - 旧軽井沢公民館開館
- 昭和51年**
 - 離山地区に軽井沢町立図書館開館
- 1976**
 - 保健休養地90周年記念式典挙行
 - 南地区児童館開館
 - 軽井沢町老人福祉センター、中央公民館開館
- 昭和52年**
 - 星野・二手橋・三笠に公衆便所設置
- 1977**
 - やまびこ国体(第33回国体)冬季大会アイスホッケー競技開催
 - やまびこ国体秋季大会ライフル射撃競技開催
 - 軽井沢町社会体育館落成

- 昭和54年**
 - 第28回全国高等学校総体スケート競技選手権大会開催
 - 第2運動場完成(管理棟、テニスコート7面)
 - 軽井沢測候所新庁舎落成
- 昭和55年**
 - 「530運動」連絡会発足
- 1980**
 - 旧三笠ホテル、国の重要文化財に指定される
 - 軽井沢町資料館開館
- 昭和56年**
 - 軽井沢町上水道管理センター落成
- 1981**
 - 万山展望望台完成
 - 第1回町民ナイター陸上競技大会開催
 - 第1回軽井沢町老人クラブゲートボール大会開催
- 昭和57年**
 - 長倉地区児童館開館
- 1982**
 - 軽井沢勤労者体育センター落成
 - 池袋西口に軽井沢コーナー開設
- 昭和58年**
 - 第2次軽井沢町長期振興計画スタート
- 1983**
 - 大型パッカマスター車導入(積載量8トン日本一)
 - 町制60周年記念式典挙行
 - 町総合防災訓練、屋外防災訓練が初めて行われる
- 昭和59年**
 - 国道18号「笑坂」拡幅工事完了
- 1984**
 - 軽井沢町防災無線網整備
 - 中部・東部小学校校舎全面改築工事完了
- 昭和60年**
 - 追分宿郷土館開館
- 1985**
 - 「ショー師記念胸像」建立(軽井沢ロータリークラブ)
 - 軽井沢中学校、軽井沢高校兼任外国人英語教師を採用
 - 第1回健康祭開催
- 昭和61年**
 - 保健休養地「軽井沢100」記念宣言発表式
- 1986**
 - 世界スプリントスピードスケート選手権大会開催
 - “軽井沢100”記念事業各種開催
 - ショーハウス復元竣工
 - 住民記録OA化
- 昭和62年**
 - 第42回国体(信濃路国体)スケート・アイスホッケー競技会開催(皇太子殿下ご夫妻ご臨席)
 - 矢ヶ崎大橋新設(延長160m)
 - 冬季オリンピック長野招致長野県縦断炬火リレー
 - 第1回町民綱引き大会開催

次の100年への序奏

- 昭和63年1988**
 - ・「ふるさとの川モデル事業」に指定される(湯川)
 - ・道路情報提供装置新設
 - ・昭和天皇のご病状を憂慮し、「氷まつり」中止
- 昭和64年・平成元年1989**
 - ・高齢者向け住宅、入居開始
 - ・共同作業所開所
 - ・デイホーム・デイサービスセンター開所
 - ・北陸新幹線、高崎～軽井沢間建設工事着工
 - ・故星野嘉助氏、市村きよじ氏、水沢邦嵩氏、名誉町民となる
 - ・1989ワールドカップスピードスケート軽井沢大会開催
- 平成2年1990**
 - ・中部・東部小屋外プール、プール更衣室、中学校給食棟改築工事完了
 - ・資料館増改築工事完了(吉沢三朗記念館併設)
 - ・軽井沢町暴力団進入阻止町民大会開催
 - ・軽井沢町の一般会計予算100億円となる
 - ・主要地方道野沢原押立線立体交差道路開通
 - ・風越公園アリーナ落成
 - ・1990ワールドカップスピードスケート軽井沢大会開催
- 平成3年1991**
 - ・第46回国民体育大会冬季大会開催(軽井沢国体)
 - ・故佐藤正人氏、名誉町民となる
 - ・堀辰雄文学記念館展示館改装及び書庫・旧宅復元工事完了
 - ・西部小屋外プール改修工事完了
 - ・町営旧軽井沢駐車場落成
 - ・第1回病院祭開催
 - ・北陸新幹線、軽井沢～長野間建設工事着工
 - ・軽井沢短期保護施設落成
 - ・矢ヶ崎公園管理棟落成
- 平成4年1992**
 - ・町議会及び消防団がそれぞれ、雲仙普賢岳と桜島を視察
 - ・中軽井沢南児童館開館
 - ・1992/93スピードスケートワールドカップ軽井沢大会開催

- 平成5年1993**
 - ・上信越自動車道開通(藤岡IC～佐久IC間89.5km)
 - ・堀辰雄文学記念館開館
 - ・浅間サンライン全線開通(上田～軽井沢間27.39km)
 - ・第3次軽井沢町長期振興計画スタート
 - ・皇太子殿下ご成婚記念植樹式
 - ・町制70周年式典挙行、町花サクラソウ・町木コブシ制定
 - ・軽井沢浄化管理センター落成
 - ・電算化システムによる印鑑証明証の交付始まる
 - ・大阪駅で軽井沢案内コーナー開設
 - ・第18回オリンピック冬季競技大会カーリング競技会場、風越公園に決定
- 平成6年1994**
 - ・上信越自動車道、碓氷軽井沢ICよりアクセス道開通
 - ・発地地区農業集落排水処理場落成(下発地)
 - ・屋外多目的運動場落成
 - ・軽井沢警察署庁舎新築工事落成移転
 - ・長野県屋外広告物条例による特別規制地域に指定される
 - ・野沢原・押立(プリンス通り)都市計画街路完成(電線類地中化)
 - ・北陸新幹線レール発進式
- 平成7年1995**
 - ・阪神・淡路大震災のため「氷まつり」中止
 - ・第1回町民カーリング大会開催(24チーム、150人参加)
 - ・北陸新幹線借宿トンネル貫通式
 - ・風越公園アリーナ入口童夢橋完成
 - ・軽井沢観光会館改築落成
 - ・風越公園プール・管理棟起工式
 - ・第1回地区対抗カーリング大会開催
- 平成8年1996**
 - ・西部小学校舎改築工事落成
 - ・風越公園「オリンピックの森」世界の樹木植樹祭(43種)
 - ・第三セクター「しなの鉄道株式会社」発足
 - ・南保育園改築落成
 - ・スカップ軽井沢落成

1988～2004

- 平成9年1997**
 - ・'97世界ジュニアカーリング選手権大会開催
 - ・浅間大橋、新幹線側道完成
 - ・北陸新幹線・しなの鉄道・JRバス開業
 - ・軽井沢町都市施設さわやかハット落成
- 平成10年1998**
 - ・第18回長野冬季オリンピック「カーリング競技」を風越公園アリーナで開催(2月9～15日)
 - ・風越公園屋外テニスコート完成
- 平成11年1999**
 - ・第54回国体(ながの国体)冬季大会アイスホッケー競技会開催
 - ・長野オリンピック1周年記念軽井沢国際カーリング競技大会開催
 - ・カナダ国プリティッシュコロンビア州ウィスラー市と姉妹都市提携宣言書に調印
 - ・粗大ごみ処理施設完成
 - ・室生犀星旧居公開
 - ・市村記念館開館
 - ・町内3小学校常勤英語指導助手採用(県内初)
 - ・第1回軽井沢町民総合体育祭開催
- 平成12年2000**
 - ・軽井沢町ホームページ開設
 - ・軽井沢町公文書公開条例施行
 - ・軽井沢オリンピック記念館開館
 - ・(旧)軽井沢駅舎記念館開館
 - ・温泉施設利用券の配布開始
 - ・軽井沢治育園、追分に新築移転
 - ・第1回軽井沢ショー祭開催
 - ・有害鳥獣被害予防対策協議会発足
 - ・軽井沢型絵染美術館開館
 - ・軽井沢町都市計画マスタープラン策定
- 平成13年2001**
 - ・女性模擬議会開催
 - ・町営住宅鳥井原団地完成
 - ・町道中谷地線開通
 - ・中軽井沢児童館改築
 - ・軽井沢消防署新築移転
 - ・軽井沢エフエム放送開局
 - ・交通渋滞緊急対策実施(パーク&レールライド)
 - ・碓氷バイパス有料道路、無料化
 - ・マンション軽井沢メソッド宣言
 - ・風越公園400mスケートリンク完成

- 平成14年2002**
 - ・貯木場設置
 - ・町営住宅新軽井沢団地完成
 - ・環境管理マニュアル策定
 - ・かるいざわ敬老園完成
 - ・軽井沢病院新築移転
 - ・まちづくり交流会設置
 - ・借宿公民館改築
 - ・学童保育開始
 - ・湯川ふるさと公園一部使用開始
 - ・交通渋滞対策・回避性向上実験実施
 - ・こども模擬議会開催(東部小学校)
- 平成15年2003**
 - ・軽井沢町ホームページリニューアル
 - ・第1回男女共同参画フォーラム開催
 - ・第4次軽井沢町長期振興計画スタート
 - ・軽井沢病院女性外来設置
 - ・軽井沢観光協会事務局移転
 - ・野生動物監視隊設置
 - ・町制施行80周年記念式典挙行
町鳥(アカハラ)・町獣(ニホンリス)制定
 - ・国道18号軽井沢バイパスを軽井沢グリーンライン、国道18号をもみじ通りと道路愛称名を付す
 - ・天皇・皇后両陛下下行幸啓
 - ・町内循環バス試行運転
 - ・軽井沢国際射撃場封鎖
 - ・皇后陛下御歌碑完成 「かの町の 野にもとめ 見し 夕すげの 月の色して 咲きみたりしが」
- 平成16年2004**
 - ・「広報かるいざわ」500号発行
 - ・大日向公民館改築
 - ・旧軽井沢団地改築
 - ・軽井沢町男女共同参画きらめきプラン策定
 - ・軽井沢町・御代田町共同事業検討会発足、その後小諸市が加わる
 - ・軽井沢ナンバー導入促進期成同盟会設立
 - ・浅間山中噴火
 - ・軽井沢大賀ホール竣工引渡式

次の100年への序奏

2005～2021

- 平成17年 2005**
 - ・大日向開拓記念館開館
 - ・軽井沢中保育園新築移転
 - ・軽井沢町子育て支援センターを中保育園に開所
 - ・軽井沢大賀ホールグランドオープン
 - ・国民宿舎軽井沢高原荘が閉鎖
 - ・町内循環バス西コース試行運転開始
 - ・軽井沢中部小学校創立50周年記念式典開催
 - ・軽井沢東部小学校創立50周年記念式典開催
 - ・軽井沢まちなみメソッド宣言
- 平成18年 2006**
 - ・千ヶ滝西区児童遊園竣工
 - ・公民館千ヶ滝西区分館竣工
 - ・旧碓氷峠遊覧歩道の吊橋が架け替えられ竣工
 - ・戸籍事務のコンピュータ化稼働
 - ・軽井沢子どもを守る連絡協議会発足
 - ・町営野沢原団地竣工
 - ・長野地方務局軽井沢出張所が長野地方務局佐久支局へ統合
 - ・軽井沢町行政改革集中プラン公表
 - ・軽井沢の歴史の道「大賀通り」で除幕式
 - ・大賀典雄氏、名誉町民となる
 - ・湯川ふるさと公園全地区供用開始
 - ・三笠ホテル100年祭開催
- 平成19年 2007**
 - ・軽井沢町保健福祉複合施設「木もれ陽の里」開設
 - ・軽井沢町まちづくり基本条例制定(8月1日施行)
 - ・軽井沢町の自然保護対策要綱等改正
 - ・台風9号による災害(倒木等による死亡者1名)
 - ・長野新幹線開業10周年記念行事
 - ・軽井沢町国民保護計画策定
 - ・旧スイス公使館(深山荘)購入
- 平成20年 2008**
 - ・第63回国体(長野かがやき国体)冬季大会アイスホッケー競技会開催
 - ・後期高齢者医療制度開始
 - ・離山公園一部供用開始
 - ・町制85周年記念式典挙行
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・東保育園改築
- 平成21年 2009**
 - ・浅間山小規模噴火
 - ・天皇皇后両陛下ご成婚50周年記念の写真パネル展開催及びユウスケの苗配布

- ・軽井沢プレミアム商品券発行開始
 - ・国土交通省の「第1回エコ通勤優良事業所」に町役場及び町開発公社が県内初めての認証登録
 - ・ウィスラー・軽井沢姉妹都市提携10周年記念軽井沢国際親善交歓会開催
 - ・天皇・皇后両陛下下行幸啓
 - ・「風越公園アリーナ」を「軽井沢風越公園アイスアリーナ」と名称変更し、通年利用できるアイスリンクにリニューアルオープン
- 平成22年 2010**
 - ・浅間ふれあい公園供用開始
 - ・東地区児童館開館、放課後子ども教室開始
 - ・「こうほうかるいざわ」「さる情報」「くま情報」のメール配信サービス開始
 - ・三市町共同事業、しなの鉄道増便事業開始
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手續等に関する条例施行
 - ・佐久市・軽井沢町・立科町、新ごみ焼却施設整備に関する基本合意書調印
 - 平成23年 2011**
 - ・軽井沢町議会通年議会開始
 - ・東日本大震災発生
 - ・西保育園改築
 - ・軽井沢町が自然環境功労者環境大臣賞を受賞
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・「再生可能エネルギー利用促進の町」宣言を議会で可決
 - ・佐久地域及びその周辺地域の地下水等水資源保全のための共同声明調印
 - 平成24年 2012**
 - ・佐久地域定住自立圏形成協定調印
 - ・都市デザイン室を設置
 - ・西地区児童館改築
 - ・国際特別都市建設連盟、地震等災害時の相互応援に関する協定締結
 - ・しなの鉄道中軽井沢新駅舎開業
 - ・第1回さわやか軽井沢交流会開催、以後恒例となる
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・電気自動車用急速充電器供用開始
 - ・第10回軽井沢男女共同参画フォーラム開催
 - ・六本辻ラウンドアバウト社会実験運用開始

- 平成25年 2013**
 - ・第5次軽井沢町長期振興計画スタート
 - ・軽井沢町地域交流施設「くつかけテラス」オープン、施設内に町立中軽井沢図書館開館
 - ・軽井沢風越公園カーリングホール「軽井沢アイスパーク」オープン
 - ・町制90周年記念式典挙行、軽井沢町シンボルマーク制定
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・町の人口が2万人となる
 - ・公民館茂沢分館竣工
- 平成26年 2014**
 - ・2016年の主要国首脳会議(サミット)誘致を表明
 - ・富岡市・安中市・軽井沢町観光連携協議会発足
 - ・スカップ軽井沢リニューアルオープン
 - ・軽井沢風越公園総合体育館オープン
 - ・天皇陛下御製碑完成「長き年の^{のち}後に来たりし 山の^の上にはくさんふろう再び見たり」
 - ・軽井沢ランドデザイン発表
- 平成27年 2015**
 - ・旧スイス公使館(深山荘)町指定文化財に指定
 - ・北陸新幹線金沢延伸
 - ・子育て支援センター移転
 - ・軽井沢町観光振興センター開設
 - ・軽井沢風越公園グラウンドリニューアルオープン
 - ・2016年サミット交通大臣会合開催決定
 - ・2016年サミット交通大臣会合推進軽井沢町町民会議設立
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
- 平成28年 2016**
 - ・軽井沢中学校新校舎使用開始
 - ・旧近衛文麿別荘(市村記念館)町指定文化財に指定
 - ・軽井沢22世紀風土フォーラム発足
 - ・軽井沢町農産物等直売施設「軽井沢発地市民庭」グランドオープン
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・G7長野県・軽井沢交通大臣会合開催
- 平成29年 2017**
 - ・第72回国体(ながの銀嶺国体)冬季大会アイスホッケー競技会開催
 - ・軽井沢中学校新グラウンド使用開始
 - ・八田別荘町指定文化財に指定
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・弾道ミサイルを想定した住民避難訓練実施

- ・第1回軽井沢町消防団ふれあいフェスティバル
- ・2019年のG20関係閣僚会合誘致を表明
- 平成30年 2018**
 - ・第23回オリンピック冬季競技大会(2018平昌)カーリング男子日本代表SC軽井沢クラブ8位入賞
 - ・風越鷲穴半自然草原(現:植物園自然園)を町指定文化財に指定
 - ・追分節(追分馬子唄・信濃追分)を町選択無形文化財に認定
 - ・信州大学社会基盤研究センター軽井沢オフィスオープン
 - ・町制施行95周年記念式典
 - ・天皇皇后両陛下下行幸啓
 - ・三面馬頭観世音菩薩を町指定文化財に指定
 - ・聖パウロカトリック教会を町指定文化財に指定
 - ・町道借宿バイパス線開通
- 平成31年・令和元年 2019**
 - ・G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合開催
 - ・軽井沢町・ウィスラー市姉妹都市提携20周年記念碑除幕式
- 令和2年 2020**
 - ・軽井沢町「CO₂排出実質ゼロ」宣言
 - ・新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が全国に発出
 - ・軽井沢町新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
 - ・黄壁布屋、鳶屋、塩沢の郷倉、長倉神社本殿、茂沢薬師堂、杉瓜観音堂を町の有形文化財に指定
 - ・軽井沢町防災減災大使に蝶野正洋氏が就任
 - ・佐久平クリーンセンター稼働開始
- 令和3年 2021**
 - ・庁舎建設及び周辺整備基本方針策定
 - ・軽井沢町ゼロカーボンシティ実現へ向けてのロードマップ報道発表
 - ・「軽井沢」名称の適切な使用について表明

名誉町民



工業界を代表する発明家

かとう よごろう
故 加藤 與五郎 氏

(昭和32年12月推挙)

理学博士。300余の特許を獲得。昭和8年、フェライト製コア、磁石およびアルミナの三大発明はわが国の工業界に画期的な発展をもたらした。昭和32年(1957)、85歳で軽井沢に自費で研修所を開き、35年には敷地を取得して創造科学教育研究所を創設。若き科学者の育成に努めた。昭和17年正三位勲二等、昭和27年藍綬褒章を受章、昭和32年文化功労章を受章。昭和42年(1967) 8月13日逝去。



万平ホテルの創立者

さとう まんぺい
故 佐藤 万平 氏

(昭和33年3月推挙)

明治27年、軽井沢町で最初の洋式ホテル(万平ホテル)を創立。海外ホテル業視察研究の成果を発揮し、わが国のホテル業界の発展と、当町の保健休養地としての発展に貢献する。数多くの公共事業に尽力、昭和18年紺綬褒章を受章。昭和33年(1958) 1月25日逝去。



保温折衷苗代の考案者

おぎわら とよじ
故 荻原 豊次 氏

(昭和38年6月推挙)

永年にわたる農業改良の研究により、保温折衷苗代を考案、高冷地における水稲栽培の画期的進歩に貢献。昭和27年藍綬褒章を受章、昭和28年農林大臣表彰、その他農業改良技術の功績により幾多の表彰を受ける。昭和40年勲五等双光旭日章を受章。昭和53年(1978) 2月10日逝去。



自然保護と観光振興に尽力

ほしの かすけ
故 星野 嘉助 氏

(平成元年9月推挙)

星野温泉を経営する傍ら、日本野鳥の会に加入し、野鳥の研究、野鳥愛護思想の普及と自然保護に尽力する。昭和30年、軽井沢観光協会の設立とともに会長に就任、誘客運動に努め、観光事業の振興と地域の経済発展に貢献。昭和51年勲六等単光旭日章を受章。昭和57年(1982) 12月1日逝去。



軽井沢夏期大学を支えた功労者

いちむら きよじ
故 市村 きよじ 氏

(平成元年9月推挙)

夫、今朝蔵氏とともに、戦時中中断した軽井沢夏期大学の再開に奔走。昭和24年の再開にこぎつけ、今日の基礎を築く。中学校新築や図書館の建設に多額の私財を寄付するなど、当町の教育文化施設の強化に尽力する。昭和51年紺綬褒章を受章。平成6年(1994) 11月28日逝去。



歴史文化の保護に功績

みずさわ くにたか
故 水沢 邦嵩 氏

(平成元年9月推挙)

昭和27年、公選制の教育委員会発足と同時に委員に就任、教育行政の進展に貢献。昭和41年当町助役に選任。その後、文化財審議委員会をはじめ多くの行政委員を歴任し、当町の伝統ある歴史文化を内外に広く普及。昭和52年勲五等瑞宝章を受章。平成13年(2001) 5月6日逝去。



町政進展に貢献

さとう まさと
故 佐藤 正人 氏

(平成3年3月推挙)

昭和47年、軽井沢町長に就任し、5期18年、町政進展のために貢献する。昭和54年北佐久郡町村会長、昭和60年長野県町村会副会長に就任。数多くの役員、審議会委員を歴任し、広域にわたる地方自治振興に尽力する。平成2年正六位勲四等瑞宝章を受章。平成2年(1990) 12月23日逝去。



音楽文化の振興に寄与

おおが のりお
故 大賀 典雄 氏

(平成18年6月推挙)

ソニー(株)の名誉会長、相談役を務め、東京フィルハーモニー交響楽団会長兼理事長などを歴任。軽井沢町の音楽文化振興のため、私財を投じて軽井沢大賀ホールを建設、平成16年12月町に寄贈。軽井沢少年少女合唱団・軽井沢ジュニアオーケストラの創設等音楽文化の振興に貢献。昭和63年藍綬褒章・平成13年勲一等瑞宝章・平成17年紺綬褒章を受章。平成23年(2011) 4月23日逝去。

軽井沢町まちづくり基本条例

軽井沢町は、雄大な浅間山にいだかれ、緑豊かな自然に恵まれた高原のまちです。明治19年(1886年)にカナダ生まれの英国聖公会宣教師アレキサンダー・クロフト・ショー氏によって、避暑地として内外に紹介されて以来、国際保健休養地としての歴史と文化を育んできました。

軽井沢町の緑豊かな自然は、先人の手によって作り上げられたもので、軽井沢町の歴史や文化の源です。この素晴らしい軽井沢町の緑豊かな自然、歴史及び文化を日本の貴重な財産として守り育てながら世界的視野と未来への展望に立って、だれもが心豊かに健康で安心した生活が送れる良好な生活環境を守り、後世に引継いでいくことが高原のまちに住む私たちに課せられた義務であるといえます。

このような認識を踏まえ、軽井沢町にかかわるすべての人の協働と連携のもと、軽井沢町が目指すまちづくりの進め方を明らかにするとともに、自らの担うべき役割と責任を自覚し、まちづくりを進めることを決意し、ここにまちづくりに関する条例の最高規範となるまちづくり基本条例を制定します。

平成19年6月22日制定

平成27年12月25日改正



町章

かるいざわの「か」を意味し、平和の鳥が飛び立つ姿を表している。昭和35年(1960)制定。



町旗

軽井沢の自然色に置き換え、秋の紅葉の赤色と浅間山の火山の色を基本に、黄色に近い赤色、オレンジ色を主色にして、水の濃いブルー、空気の淡いブルーで構成し、生地の白色を色の接触する部分に使用します。



町の花 サクラソウ / 町の木 コブシ

町制施行70周年を記念し、平成5年(1993)制定。



町の鳥 アカハラ / 町の獣 ニホンリス

町制施行80周年を記念し、平成15年(2003)制定。



karuzawa

軽井沢町シンボルマーク

町制施行90周年を記念し、平成25年(2013)制定。



軽井沢町キャラクター

RUIZA(ルイザ)ちゃん

軽井沢町の豊かな山々を基調とした明るく、元気なキャラクター。頭には浅間山と軽井沢町の町花「サクラソウ」、体には清流と風をイメージ(腹巻き?)しました。